

**地域社会保障教育推進事業
実施報告書**

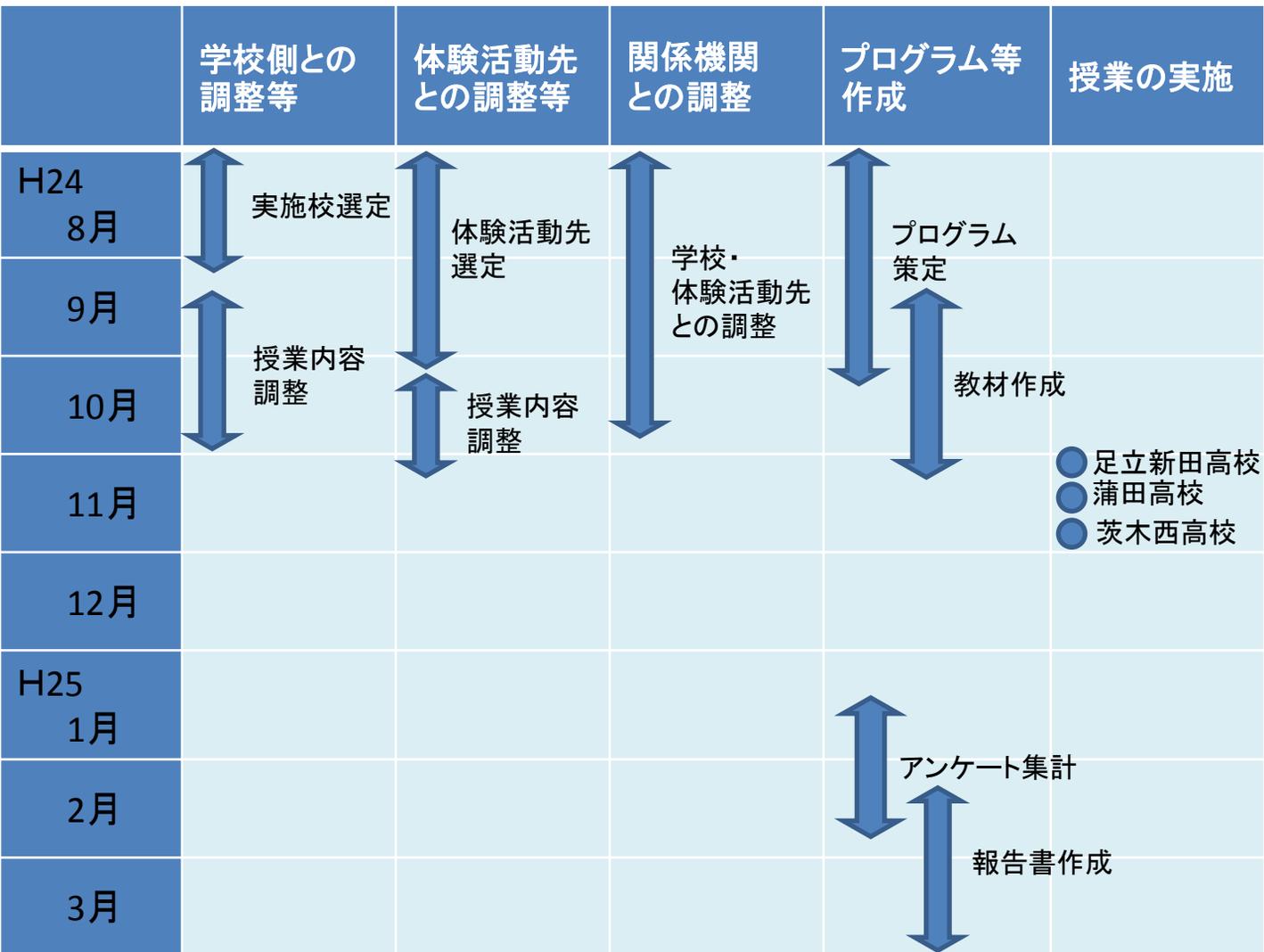
平成25年3月

株式会社 放送映画製作所

目 次

1. 全体スケジュール	2
2. 委託事業実施状況報告	
(1) 実施体制	3
(2) 学校の選定・調整過程	4
(3) 体験活動連携先の選定、調整過程	5
(4) 関係機関(地方自治体、教育委員会等)との調整過程	
(5) 社会保障教育プログラムの策定	6
(6) 教材の作成・準備	7
(7) 授業の実施	8
3. 授業の実施結果の検証	17
(1) 生徒の関心・理解に繋がった点	
(2) 問題点・改善すべき点	
4. 社会保障教育の全国展開・定着に向けた考察	18
(1) 現状の課題	
(2) 提案	
5. アンケート集計報告	
(1) 調査概要	19
(2) 調査結果詳細	23

1. 全体スケジュール

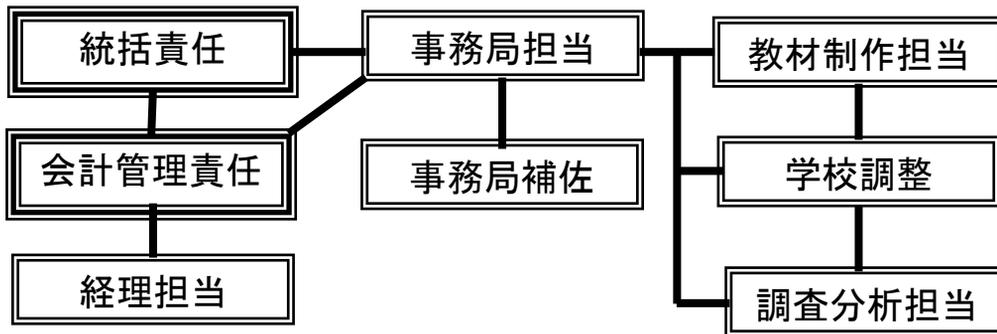


2. 委託事業実施状況報告

(1) 実施体制

① 受託者

株式会社放送映画製作所



② 授業の実施校

学校名 (所在地)	国 公 私	科	学 年	人 数	充 当 教 科	担 当 教 諭・ 講 師		体 験 学 習 先	実 施 日
						講 義	体 験 学 習		
東京都立 蒲田高等学校 (東京都大田区 蒲田本町1-1- 30)	公	普 通 科	2	6 名	現 代 社 会 選 択	宮 崎 三 喜 男 (公 民 科)	遠 藤 慶 子 伊 藤 ひ か 代 (株) フ ジ ケン シ ル バ ー サ ー ビ ス 社 会 福 祉 士 看 護 士	溝 口 駅 前 デ イ サ ー ビ ス セ ン タ ー (神 奈 川 県 川 崎 市 高 津 区 溝 口 1-20-8)	平 成 24 年 11 月 15 日
東京都立足立 新田高等学校 (東京都足立区 新田2-10-16)	公	普 通 科	3	40 名	家 庭 科	三 野 直 子 (家 庭 科)	遠 藤 慶 子 伊 藤 ひ か 代 (株) フ ジ ケン シ ル バ ー サ ー ビ ス 社 会 福 祉 士 看 護 士	東 京 都 立 足 立 新 田 高 等 学 校 (東 京 都 足 立 区 新 田 2-10-16)	平 成 24 年 11 月 21 日
大阪府立茨木 西高等学校 (大阪府茨木市 紫明園10-68)	公	普 通 科	3	26 名	家 庭 科	西 田 恵 理 (家 庭 科)	水 野 昌 和 (NPO い ば ら き 自 立 支 援 セ ン タ ー 介 護 福 祉 士)	大 阪 府 立 茨 木 西 高 等 学 校 (大 阪 府 茨 木 市 紫 明 園 10-68)	平 成 24 年 11 月 16 日

(2) 学校の選定・調整過程

弊社は40年程前から、高等学校の進路指導映像教材の制作や有識者、学校現場の先生を交えた教材制作委員会の開催実績有り。

今回、過去に消費者教育に関する教材を制作した際に、ご指導・ご助言いただいた先生や生活設計、キャリア教育に関する授業実践プランをご執筆いただいた先生を選定、依頼した。

まずは、趣旨をメールで伝えた後、詳細については電話でアポイントをとり、直接学校に出向き、説明した。

①選定までの所要期間

約1ヶ月間(平成24年8月)

②当該学校の選定に至った経緯

消費者教育に関する教材を制作した際に、ご指導・ご助言いただいた先生や生活設計、キャリア教育に関する授業実践プランをご執筆いただいた先生を選定した。

なかでも、様々な授業実践を行い、社会保障教育に関してもスムーズに実践いただけると考えられる経験豊富な先生に依頼した。

③選定に当たり留意した点

学年の別、充当教科、地域別等、バリエーションを考慮して選定した。

* 2年と3年、社会科(公民科)と家庭科、東京都と大阪府

④選定・調整に当たり障害となった点

・年度途中で、年間の授業計画が確定していることもあり、社会保障教育に関して、学校に授業を3時間確保いただくことが難しかった。

* 年間の授業計画を考える時期などに学校に依頼する必要がある。

・学校長の許可や時間的な制約により、体験学習を学校外でするのは難しい。

(3) 体験活動連携先の選定・調整過程

弊社が過去に映像教材を制作した際、撮影に協力いただいた体験活動施設や関係者を選定、依頼した。

まずは、趣旨をメールで伝えた後、詳細については電話でアポイントをとり、直接体験活動施設に出向き、説明した。

①選定までの所要期間

約2ヶ月(平成24年9月～10月)

当初予定していた体験活動施設から、変更したため、選定、依頼に少し時間がかかった。

②当該連携先の選定に至った経緯

体験活動を実施した3校のうち、1校は学校による紹介、他の2校は、弊社が過去、撮影に協力いただいた機関を選定、依頼した。

③選定に当たり留意した点

今回の事業の趣旨を理解し、賛同いただくことができ、また講義内容との整合性がとれる体験活動施設である点。

④選定・調整に当たり障害となった点

体験活動施設の業務の妨げにならないように注意した。

また施設を利用されている高齢者のプライバシーや個人情報に配慮した。

体験活動の講師が、出張授業で来校される際は、体験活動に必要な器具、材料の準備や体験活動の時間配分に苦労した。

高齢者の食事を体験する授業では、介護食を購入し、レンジなどで事前に温めるなどの準備を行った。

(4) 連携機関(地方自治体、教育委員会等)との調整過程

今回は、地方自治体、教育委員会等との連携は行わなかったため、調整不要であった。

(5) 社会保障教育プログラムの策定

① 策定者

授業を担当した教諭、体験学習の講師

② 策定に当たり参考にしたもの

◆厚生労働省作成の指導者用マニュアル・ワークシート

- ・『政府の役割と社会保障』
 - 政府の役割
 - 社会保障の役割
 - 税や社会保険料について知ろう
 - 社会保険料と税の違いとは
- ・『公的医療保険って何だろう?』
 - 知ってる?日本の医療保険
 - 公的医療保険の意義とは①②

◆高等学校教科書:

- ・新現代社会〔第一学習社〕(東京都立蒲田高等学校)
- ・家庭総合〔第一学習社〕 (大阪府立茨木西高等学校)
- ・発達と保育〔教育図書〕 (大阪府立茨木西高等学校)
- ・家庭基礎〔教育図書〕 (東京都立足立新田高等学校)
 - 人口の高齢化
 - 高齢者介護
 - これからの社会保障制度を考えよう～海外との比較
 - 高齢期の食事

③ 策定に当たり留意した点

今回3年生で実施いただいた学校のうち、2年で社会保障の一部を学習した学校では、授業の復習・振り返りという視点でプログラムを実施した。

(6)教材の作成・準備

①作成者

授業を担当した教諭、体験学習の講師

②作成に当たり参考にしたもの

- ◆新聞:読売新聞〔ヨミドクター〕 (大阪府立茨木西高等学校)
- ◆テレビ:
 - ・NHK『オトナへのトビラ(お金編)』(東京都立足立新田高等学校)
意外なお金の落とし穴、知っておきたいお金の常識や節約術など、
お金にまつわる番組。
 - ・NHK『バリバラ(ひとり暮らし)』(大阪府立茨木西高等学校)
恋愛、仕事から、スポーツ、アートにいたるまで、日常生活のあらゆる
ジャンルについて、障害者が「本当に必要な情報」を楽しく届ける番組。
- ◆その他:
 - ・公益財団法人 生命保険文化センター 新しい「家庭科」パワーポイント教材
(東京都立足立新田高等学校)
 - ・茨木市の広報誌「広報いばらき」(大阪府立茨木西高等学校)
 - ・茨木市作成の障害者福祉の手引(大阪府立茨木西高等学校)
 - ・公益財団法人 在宅医療女性 勇美記念財団発行の暮らしの健康手帳
(東京都立蒲田高等学校)
 - ・全国社会福祉協議会発行の障害者自立支援法のサービス利用について
(大阪府立茨木西高等学校)
 - ・体験活動講師作成パワーポイント資料 社会保障論～高齢者の食事を通して～
(東京都立足立新田高等学校)
 - ・今日からできる介護予防シリーズ リーフレット
「口から始める健口生活 実践！口腔保健ケア」
(東京都立足立新田高等学校)

③作成・準備に当たり留意した点

- ・厚生労働省作成のワークシートは、生徒が理解、関心を示すように、
順番をかえたり、内容をアレンジした。

(7)授業の実施

東京都立蒲田高等学校

- (1)所在地：〒144-0053 東京都大田区蒲田1-1-30 TEL: 03-3737-1331
(2)受講生徒：普通科2年生(1クラス 計6名)
(3)充当教科：公民科 現代社会選択授業

1限目(講義)

- (1)日時：平成24年11月 8日(木) 5限目 13時10分～14時
(2)講師：公民科教諭：宮崎 三喜男(みやざき みきお)先生
(3)目的：自分自身と他者の存在を知り、支え合うことの大切さを知る。
社会保障制度の意義を学ぶ。

展 開	学習内容	使用教材
10分	経済学と社会保障 ・「幸福」という考えから「社会保障制度」について興味を持つ。⇒ブータンの幸福度指数の話	
35分	政府の役割 ・政府が財政を通して果たしている役割について理解。 ・財政のグラフから社会保障費が増大している現状や赤字財政になっていることについて理解。 社会保障の役割 ・社会保障制度が、国民の最低限度の生活を保障する制度であることや日本における社会保障の4つの柱を理解。 ・年金制度の収入と支出の関係を知り、給付と負担のバランスを考える。	厚生労働省 「政府の役割と社会保障」 ワークシート *一部アレンジ
5分	『豊かさを分かち合う社会』について考える。	

2限目(体験学習)

(1)日時:平成24年11月15日(木) 5・6限目 13時45分～14時30分

*13時～13時30分、14時30分～15時電車にて移動

(2)体験活動先講師:溝口駅前デイサービスセンター

*運営:株式会社フジケンシルバーサービス

所在地:〒213-0001 神奈川県川崎市高津区溝口1-20-8

TEL:044-822-7000

株式会社フジケンシルバーサービス 社会福祉士 遠藤 慶子
看護士 伊藤 ひか代

(3)目的:近年、高齢者と接することのできる環境を持つ生徒が少なく、年老いていくことで心や体の様々な機能が低下することを理解しにくい。また将来、介護が必要になったとき、家族・身内以外の支援、特に誰もが保証されている公的支援について考えることが、生活設計においても重要になっている。そこで、デイサービスなどの福祉施設を見学・訪問することで、高齢者の心と体の変化を理解し、高齢者と共に生活できるように、また、将来高齢者となったときに主体的に生活できるようにする。

展 開	学習内容	使用教材
15分 介護保険制度 の話	専門から日本の高齢化の現状などを聴く。 介護保険制度とは？ ・介護の現状と介護の種類・方法を理解する。 ・介護保険制度の概要を理解する。	『暮らしの健康手帳』 (発行:公益財団法人 在宅医療女性勇美記念財団)
20分 実施体験	高齢者の体の変化を知ろう ・2名1組になり、高齢者体験用の器具を装着し、高齢者の日常動作を体験する。 ⇒高齢期特有の体の変化を理解。 ・高齢者とディスカッション ⇒高齢者心の変化にも注目し、 高齢者の接し方を考える。	
10分	高齢者の生活を理解し、社会的支援の必要性を再確認する。	

3限目(ワークショップ)

「障害者や高齢者体験から社会保障を考える」

(1)日時：平成24年11月22日(木) 5限目 13時10分～14時

(2)講師：公民科教諭：宮崎 三喜男(みやざき みきお)先生

(3)目的：生徒がブラインドウォークや車椅子体験を行うことで、障害者や高齢者が持つ不安感などを体験することで、障害者や高齢者の自立生活について身近に捉え、社会保障の必要性について考えること。

展 開	学習内容	使用教材
5分 ①インストラクション	・緊張をほぐすために構成的グループエンカウンターを実施し、アクティビティに対する心構えを行う。 じゃんけんで負けた人が、勝った人の肩に手をのせる。	* 構成的グループエンカウンターとは… リーダーが用意したプログラムで作業や討議をする方法で、本音の交流を行うこと。
15分 ②アクティビティ 1	ブラインドウォークの実施 2名1組になり、校舎内を助け合いながら歩く。その際、声を掛けあうなど、コミュニケーションを大切にする。 * ブラインドウォークを行う際の安全指導を徹底させる。	
15分 ③アクティビティ 2	車椅子体験 ・2名1組にて、校舎内を車椅子にて移動する。	
15分 ④シェアリング	振り返り デイサービスに通う高齢者の方の話や自らが体験したことから、社会保障制度の在り方について考える。 ・案内した人は、優しさをどのように伝えようとしたか。 ・車椅子を押した人はどのようなことを注意したのか。 体験したアクティビティを通して他者に対する、また自己の心の変化を感じさせるよう留意する。 ・今日の感想を漢字1文字で表し、振り返る。	

東京都立足立新田高等学校

- (1)所在地 : 〒123-0865 東京都足立区新田2-10-16 TEL:03-3914-4211
 (2)受講生徒: 普通科3年生(1クラス40名)
 (3)充当教科: 家庭科

1 限目(講義)

- (1)日時:平成24年11月14日(水) 1限目 8時45分～9時35分
 2限目 9時45分～10時35分
- (2)講師:家庭科教諭:三野 直子(みの なおこ)先生
- (3)目的:3年では、「健康で長生き」をキーワードに食生活領域を学習している。また、2年次の3学期は家計費の学習から住居費を考えさせ、住居費から住生活領域の学習を実施した。そこで、3年次は「自立に向けて・・・お金編」を導入に日々の生活でお金について考えさせ、2年次の社会福祉の学習を発展させて、近い将来自立する生徒に学ばせたいと考えた。実際、クラスには大学進学者、専門学校進学者、就職など様々な生徒が混在している。進学者の多くは学資ローンを組んでいる生徒も多いのでこの題材を選んだ。

展 開	学習内容	使用教材
5分	2年次での社会保障の学習を振り返り、本時の目的を知る。	絵本 童話『三匹のこぶた』
35分	パワーポイントの画面を見ながら、ワークシートをまとめる。 ・近い将来・遠い未来から目の前にあるお金について考える。 ・日頃のお金の使い道をチェックする。 ・家計費から社会保障費を知り、その内容を知る。 リスクへの備えとは何か、考える。 ・公的保障・私的保障を考える。 ・お金にまつわるトラブルをDVDで視聴する。	・パワーポイント資料 『自立に向けて・・・お金編』 ・厚生労働省資料 ワークシート改訂版 ・NHK オトナへのトビラ 「DAYS2お金」
10分	生活者としてどのような力を身につけることが必要か考える。	

2限目(講義)

展 開	学 習 内 容	使 用 教 材
5分	本時の目的を知る。	
35分	<ul style="list-style-type: none"> ・国をキーワードにお金について考えてみる。 ・「健康で長生き」であれば、公的医療保険は必要がない。すなわち、税金をそこで消費しない行為につながることを知る。 ・社会保障と政府の関係を考える。 ・労働の対価として得たお金の一部が税金となり、社会保障に使われていることを再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省資料 ワークシート改訂版
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の予告 次回、社会保障の中の社会福祉制度について考えるために、外部講師の方が来られ、体験型の授業を実施することを知る。 高齢者体験を通じて、社会保障も身近に感じ、考える。 	

3・4限目(体験学習)

「食生活領域における高齢者体験」

(1) 授業時間: 11月21日(水) 1限目 8時45分～9時35分 2限目 9時45分～10時35分

(2) 体験活動先講師: 株式会社フジケンシルバーサービス 社会福祉士 遠藤 慶子
看護師 伊藤 ひか代

(3) 目的: 食生活領域での高齢者の日常生活を疑似体験することで、高齢者の心と体の変化を理解し、高齢者とともに生活できるように、また、将来高齢者となった時に、「健康で長生き」をキーワードに、自らが主体的に生活できるようにするのがねらい。

展 開	学習内容	使用教材
50分 高齢者の 現状	専門家から日本の高齢化の現状を聴く。 日本の人口分布の変遷、高齢者の割合の増加などの解説。	体験活動講師作成 パワーポイント資料 『社会保障論～高齢者の 食事を通して～』
食事や咀嚼の 重要性	高齢者の食事をとおして、健康、 介護予防について考える。 咀嚼とは何か、など。	今日からできる介護予防 シリーズ リーフレット 『口から始める健口生活 実践！口腔保健ケア』
介護保険制度 の話	介護保険制度とは？ 専門家から介護保険とは何か？ 介護保険の仕組みなどを聴く。	
35分 実施体験 高齢者の 食事を体験	・4～5名1グループになり、食生活を 中心に高齢者の生活を見つめさせる。 加齢に伴う身体の変化とともに食生活 での変化を知る。 ・生徒が実際に介護食を試食。 お互いに食事を食べさせたり、 食べさせてもらったりといった体験をする。	介護食: ユニバーサルデザインフード 『やさしい献立』 (キューピー)
10分 グループ ディスカッション	実施体験の感想や意見を各グループで話し合う。	
5分 質疑応答 まとめ	本日の体験活動の感想を話し合い、 学んだことを振り返り、発表する。 高齢者の生活を理解し、社会的支援の 必要性を再確認する。	

大阪府立茨木西高等学校

- (1)所在地 : 〒567-0045 大阪府茨木市紫明園10-68 TEL:072-625-5711]
 (2)受講生徒: 普通科3年生(保育選択26名)
 (3)充当教科: 家庭科

1 限目(講義・グループディスカッション)

「家庭生活と社会保障」～自立した生活者として学ぶべきこと①～

- (1)日時: 平成24年11月 9日(金) 4限目 11時40分～12時30分
 (2)講師: 家庭科教諭 西田 恵理(にしだ えり)先生
 (3)目的: 社会保障の意義や内容について理解を深め、生活に役立てる。
 社会保障の必要性と、家計における非消費支出(税金・社会保険料)とのかかわりを認識する。

展 開	学習内容	使用教材
5分	本時の目的を知る。	
15分 社会保障の 4つの柱	身近なリスクについて考える。 ・社会保障の4つの柱を確認・理解する。 社会保障とは？ ◇社会保険 ◇公的扶助 ◇社会福祉 ◇公衆衛生及び医療	4つの保障のパネル
20分 グループ ディスカッション	・社会保障とは何か 家庭生活と社会保障について考える。 4～5名が1グループとなり、市の広報誌等を利用し、社会保険・公的扶助・社会福祉・公衆衛生に関連したものを色分けし、身近な具体例を知る。その後、グループごとに発表。	茨木市の広報誌 『広報いばらき』
10分	本日の授業の振り返り。 生活者としてどのような力を身につけることが必要か考える。	

2限目(講義)

「家庭生活と社会保障」～自立した生活者として学ぶべきこと②～

(1)日時：平成24年11月13日(火) 2限目 9時40分～10時30分

(2)講師：家庭科教諭 西田 恵理(にしだ えり)先生

(3)目的：人の一生と主な社会保障についてカードを作成することにより、しっかりと理解する。社会保障について、具体的な資料(新聞)を読み、考え、発表させることにより、理解を深める。社会保障カードを校内に展示し、社会保障についての理解を生徒が共有する。

展 開	学習内容	使用教材
25分 社会保障の 復習	前回の授業の復習を実施。 ・社会保障の4つの柱 ・社会保障クイズ 社会保障を理解する。	先生が制作したパワーポイント資料
20分 DVD視聴	次回、社会保障の中の 社会福祉制度について考えるために、 外部講師の方が来られ、体験型の 授業を実施することを知る。 障害者の自立生活とヘルパーの方 とのかかわりを描いた映像を視聴する。	NHK『バリバラ(ひとり暮らし)』
5分	*家庭学習 社会保障の財源について考える。 給料明細より税や社会保険料について 考える。 社会保障に関連した新聞記事を読んで、 考える。	読売新聞[ヨミドクター] a. 子育て支援の体制は？ b. 国民年金保険料未納問題 c. 介護保険サービス利用方法 d. 正社員を目指す就労支援制度

3限目(体験学習)

「福祉現場から語る～社会保障の必要性～」

(1)日時：平成24年11月16日(金) 4限目 11時40分～12時30分

(2)体験：活動先講師：NPO法人 いばらき自立支援センター 介護福祉士 水野 昌和

(3)目的：障害者の自立生活を支える社会福祉サービスについて、生徒が体験的に学習活動に取り組むことにより、興味・関心を持ち、障害者の自立生活について身近に捉え、社会保障の必要性を理解すること。

展開	学習内容	使用教材
10分 オリエンテーション	専門家から話をいただく。	茨木市作成 『障害者福祉の手引』 『障害者自立支援法のサービス利用について』 (全国社会福祉協議会発行)
20分 ①グループ ディスカッション	グループディスカッションを実施する。 ・5～6名のグループで実施する。 ・車いすを利用されている障害の方等が各グループに1名ずつ入り、ディスカッションを行う。 ・自己紹介 ・普段の生活について ・困ったことについて 等 ⇒障害者への理解を深める。	
10分 ②直接介護体験	介護技術を体験する。 ・専門家から介護の技術について直接指導を受ける。 ・障害者の身になって様々な苦勞・課題について実体験する。 ・障害者への配慮について実体験をとおして考え、行動する。	
10分 質疑応答・感想	・本日の体験活動の感想を話し合い、学んだことや感想をノートに記入。	

3. 授業の実施結果の検証

(1) 生徒の関心・理解に繋がった点

- ・導入として、生徒が興味を持つと考えられる話題、テーマを選び、生徒に投げかけた。
例) : 世界にたった2国(A国またはB国)しかなく、どちらかを絶対に選ばないといけない。
その場合、次のどちらの国を選ぶか。
A国: 国民の半分900万円の収入、国民の半分100万円の収入
B国: 国民全員400万円の収入
- ・ブータンの幸福度指数の話から「幸福」について考え、社会保障制度へと結びつけた。
- ・先生や体験活動先講師が作成したパワーポイントや先生が選んだDVD教材を活用した。
- ・一方的に解説・説明するのではなく、グループワークやディスカッションを交えることで、生徒同士の意見交換の場をつくった。
- ・第1回目の授業で、グループワークを実施した学校では、生徒同士の意見交換や生徒自身で考える姿勢が見受けられた。講義の前にグループワークや体験学習をすると効果が増す可能性が高いと考えられる。
- ・講義及び体験活動など、計3回以上、授業を実施することにより、社会保障への関心・理解が段階的に深まっていった。
- ・自分の将来に役立つ内容であると生徒が感じたため、熱心に授業を受けていた。

(2) 問題点・改善すべき点

■問題点:

- ・厚生労働省にて作成された教材について、イラストなどを活用し、わかりやすく工夫されており、非常に良い教材であるが、内容的に細かすぎる印象がある。
- ・教材は良いが、詳しすぎる。記入の仕方が生徒の目線から見ると書きづらい。
- ・学習する分量が多く、進むのが早く、理解が間に合わない生徒も見受けられた。
- ・社会保障のことをあまり詳しく知らないのでもよくわからないといった生徒もいた。
- ・講義を行ってから体験をするよりは、体験を先に実施してから講義をし、「体験し、感じたことを実現するために社会保障制度が存在する」と伝えた方が、生徒の心に残るのではないかと感じる。

■改善すべき点:

- ・教材は、あくまでも導入を目的としたものとし、情報を詰め込み過ぎないようにする必要はある。
- ・検討会での委員からのご指摘もあり、体験学習を先に実施してから講義をするよう、調整を試みたが、授業のスケジュールと体験学習の受入れ施設のスケジュール調整がうまく行かず、結果、講義を先に実施してから体験学習の流れとなってしまった。
- ・体験活動で心を動かさせて、その後、講義をする。今回、講義を先にしてしまった流れで、生徒に対し、教える要素が強くなってしまった感がある。生徒は社会保障についてほとんど知らないというのが現実で、ある程度、社会保障について知っている生徒であればそれ程難しくもないが、社会保障について何も知らない生徒に教えるのは難しかった。

4. 社会保障教育の全国展開・定着に向けた考察

(1) 現状の課題

- ・学校現場に関しては、授業時間や先生の業務の増大等により、多くの時数を割けない。社会保障教育は必要であるが、授業時間はほとんど取れない(社会科では2時間程度)。核心的なところを教えるのが優先であると考えられる。年金や社会保障の制度を教えるというよりは、支え合うということの大切さを伝えるのが重要である。
- ・厚生労働省が制作した教材は、時間との兼ね合いや内容が難しい。また今回、租税教育と社会保障教育が1つになっているが、教科書では、租税教育と社会保障教育とは分けて学習する。教材をどのようにアレンジしていくかが課題。
- ・生徒にとって体験学習の効果は大きい。しかし、スケジュール調整、事前準備や打合せが難しい。
- ・体験学習のため、学校外へ出かけるのは移動時間や許可などの制約があり、実施が難しい。
- ・50分授業で移動(学校から体験活動施設迄の往復)時間を取られると、ほとんど時間が残らない。その中で今回1校体験学習が実施できた要因としては、
 - ①まずは先生・学校の理解と体験活動施設の賛同が得られたことが大きい。
 - ②体験活動施設の選定・交渉、スケジュール調整や事前打合せなどについて、学校に負担をかけず弊社が行った。
 - ③学校から片道30分程の体験活動施設を選定した。
 - ④体験学習を行うために、学校には往復の移動を含め、5・6時間目を充当いただいた。

(2) 提案

■授業を实践いただく学校の選定及び交渉について

- ・過去に金融教育や生活設計教育などを実践した実績のある学校及び先生にアプローチする。公民科や家庭科といった教科が中心。
- ・事前に学校長へ授業およびアンケート実施に関する依頼文を提出しておく。

■教材について

- ・財政と社会保障は密接に関連しているが、教材としては分けた方が使用しやすい。またワークシートは、50分ではなく、20分で終了するものをいくつか作成した方が活用しやすい。
- ・社会保障について、短時間であまり深いところまで理解させるのは難しいため、社会保障を学習するきっかけ、導入という位置付けの教材を開発すれば、比較的活用されると考えられる。

■授業展開について

- ・学校間のレベル差が非常に大きいため、ターゲットを明確にした資料が望まれる。
- ・高等学校の家庭科の先生向けに授業で活用できるDVDやパワーポイント教材、授業展開例などを紹介すると良い。
- ・今回、新聞や専門誌など数社に取り上げられたが、ニュースリリースをして、新聞等に掲載してもらおうと、PRの場が広がり、活動の幅も広がると考えられる。

* 朝日新聞:コラム「窓～論説委員会室から」、読売新聞大阪本社:コラム「風の座標」、信濃毎日新聞、徳島新聞等(共同通信社配信)、雑誌「年金時代」 他

- ・生徒に向けた情報提供も必要であるが、先生向けの研修、資料提供も必要である。
- ・平成25年度の新学習指導要領『社会科』の現代社会で、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させるとある。幸せのために助け合いが必要であることを体験を通して伝えることが大切。

5. アンケート集計報告

(1) 調査概要

(1)－1. 調査目的について

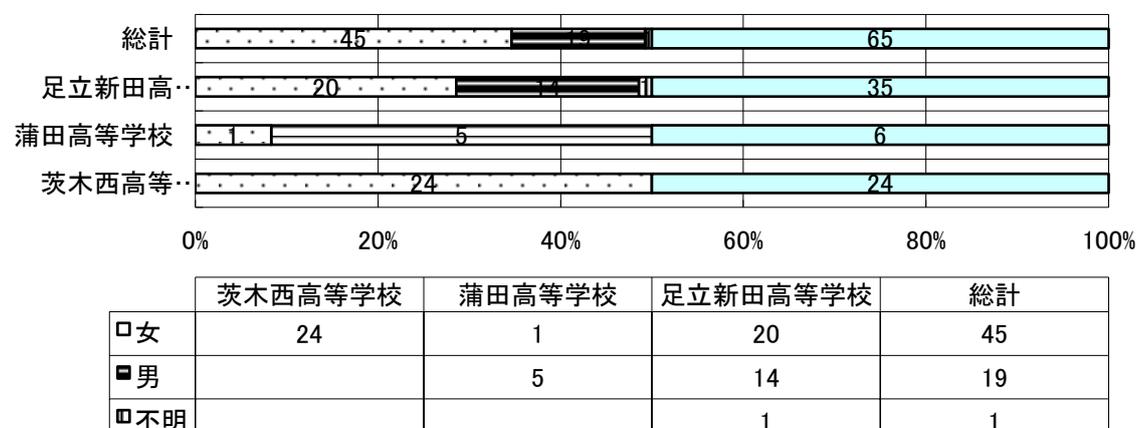
高等学校の生徒及び教師、体験活動の講師を対象に、社会保障に関する意識調査を行い、意識の実態調査を行う。社会保障に関する体験学習・グループワークなどを通じて、意識の変化を調査することにより、社会保障教育全般に対する効果及びその方法や教材に対する効果測定を行う。

(1)－2. 調査対象について

1. 全国の高等学校3校の生徒65名 * 対象詳細は、※別表－1_調査対象について(3校の生徒内訳) 参照。
2. 今回の調査を実施するために授業等を行った高等学校3校の教師、体験活動の講師 計6名
※内訳: 高等学校3校の教師3名/体験活動の講師3名

■“生徒”_65名 ■高等学校3校の教師、体験活動の講師_合計6名

※別表－1_調査対象について(3校の生徒内訳)



※今回の調査対象は対象母数が少ない為、男女を用いた複合集計は割愛とする。

(1)－3. 調査方法について

生徒対象に社会保障に関連した体験活動・グループワークを行う前と後で意識の変化の違いを調査した。また、高等学校の教師、体験活動の講師に対しても別途アンケートを行い、意識の変化の違いを調査した。

(1)－4. 調査アンケートの設問項目について

実際に調査で使用したアンケート内容を下記に記載する。アンケートの種類は回答する対象毎に用意し、生徒/高等学校の教師、体験活動の講師 それぞれで2種類ある。(別表－2・3～各種アンケート内容 参照)
また、アンケートそれぞれの設問に、内容から判断される性質にて、“A”・“B”・“C”と3つに分類し、設問の前に連番と組み合わせて設問番号とする。これらの設問番号は、調査内容とアンケート設問の関連性を表すために、(1)－5でも使用する。それぞれの定義は以下の通り。

※設問番号の種類と説明

- _A-「連番」: 体験活動・グループワーク活動前の意識調査
- _B-「連番」: 体験活動・グループワーク活動内容と付随する全般について
- _C-「連番」: 体験活動・グループワーク活動後の意識調査

※別表-2:地域社会保障教育推進事業「教育プログラム」に関するアンケート(生徒用)
 (言い回しが違う単語、回答補助に関する一部文章は削除・改変をしている)

設問番号	アンケート内容
A-1	社会保障について知っていますか？
A-2	社会保障について関心がありますか？
A-3	社会保障に対するイメージは？
B-4	授業(グループワーク・ディスカッションなど含む)を受けた意見・感想
B-5	授業を受けた意見・感想をご自由にお書きください。
B-6	体験活動(学習)を受けた意見・感想をご自由にお書きください。
C-7	今回の授業を受けて、社会保障について関心が高まりましたか？
C-8	今回の授業を受けて、社会保障の仕組みが理解できましたか？
C-9	社会保障に対するイメージは変わりましたか？
B-10	今回の授業で使用した社会保障教育の教材はわかりやすかったですか？
C-11	今後もこのような社会保障に関する学習に取り組みたいと思いましたか？
C-12	社会保障全般について、どう思いましたか？
C-13	授業や体験活動、教材に関する意見・感想をご自由にお書き下さい。

※別表-3:地域社会保障教育推進事業「教育プログラム」に関するアンケート(教師・講師用)
 (言い回しが違う単語、回答補助に関する一部文章は削除・改変をしている)

設問番号	アンケート内容
A-1	生徒は社会保障に関心を持っていると思いますか？
A-2	ご自身は、社会保障に関心がありますか？
A-3	社会保障に対するイメージは？
C-4	今回の体験活動を実施して、生徒の社会保障への関心度が高くなったと感じますか？
B-5	社会保障の仕組みを生徒に教えるのに、今回の体験活動は十分でしたか？
C-6	今回の体験活動を実施して、社会保障に対するイメージは変わりましたか？
C-7	今後もこのような社会保障に関する学習に協力したいと思いましたか？
B-8	準備や打ち合わせに苦労した点はありましたか？(ある場合、理由も記載)
B-9	生徒にとって体験学習は有意義な取り組みだと思いましたか？
C-10	社会保障について、どう思いましたか？
B-11	授業・体験活動(学習)に関する意見・感想
B-12	厚生労働省からの提供教材は使いやすかったですか？(教師限定設問)
B-13	厚生労働省からの提供教材に関する意見・ご感想(教師限定設問)
C-14	今後、学校で社会保障教育を全国に広げていくには、どうしたら良いとお考えですか？(教師限定設問)

(1)－5. 調査項目と調査アンケートの関連性

(1)－4で触れたアンケート内容を集計した調査項目の関連性を 別表－5・6にまとめ、各項目の説明を下記に記す

* 各アンケート設問の詳細は (1)－4 参照)

調査項目も調査対象毎に変更されているので、生徒/高等学校の教師、体験活動の講師の計2種類が存在する。

またアンケートにより、記述は異なるが、同じ設問内容はまとめて集計するものとする。

調査項目に対しても、“調査対象－連番”の組み合わせで固有番号を作成する事により、調査対象毎の分類とする。

※別表－5:調査項目とアンケートの相関表(生徒用)

調査番号	調査内容	集計に関連する設問番号
生徒－1	社会保障教育における効果測定(理解の変化)	A－1・C－8
生徒－2	社会保障教育における効果測定(関心の変化)	A－2・C－7
生徒－3	社会保障教育における効果測定(イメージの変化)	A－3・C－9
生徒－4	教育後の社会保障全般への意見・感想	C－12
生徒－5	社会保障に対する授業(グループワーク、ディスカッション等)への意見・感想	B－4・B－5
生徒－6	体験活動(学習)を受けた意見・感想	B－6
生徒－7	今回の社会保障教育で使用した教材についての意見・感想	B－10
生徒－8	今回の社会保障教育に対する全般的な意見・感想	C－13
生徒－9	今後の社会保障学習に対する意欲について	C－11

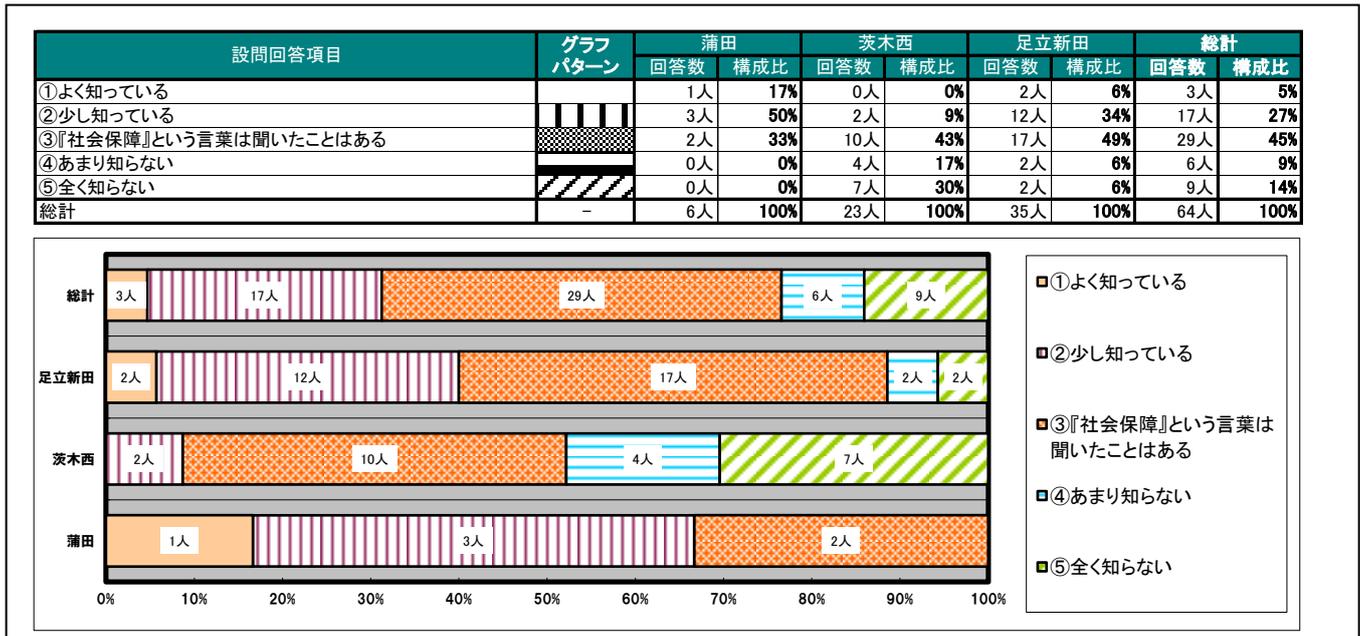
※別表－6:調査項目とアンケートの相関表(高等学校の教師、体験活動の講師用)

調査番号	調査内容	集計に関連する設問番号
教師・講師－1	教師・講師から見た、生徒の社会保障教育における効果測定(関心の変化)	A－1・C－4
教師・講師－2	教師・講師の社会保障教育の効果測定(関心の変化)	A－2・C－10
教師・講師－3	教師・講師の社会保障教育の効果測定(イメージの変化)	A－3・C－6
教師・講師－4	教師・講師の授業・体験活動(学習)に関する意見・感想	B－9・B－11
教師・講師－5	教師から見た、社会保障推進教育全般への意見・感想	B－5・B－8
教師・講師－6	社会保障推進教育に使用した教材への意見・感想	B－12・B－13
教師・講師－7	今後の社会保障推進教育への意見・感想	C－7・C－14

 (2) 調査結果詳細 

生徒－1_社会保障教育における効果測定(理解の変化)

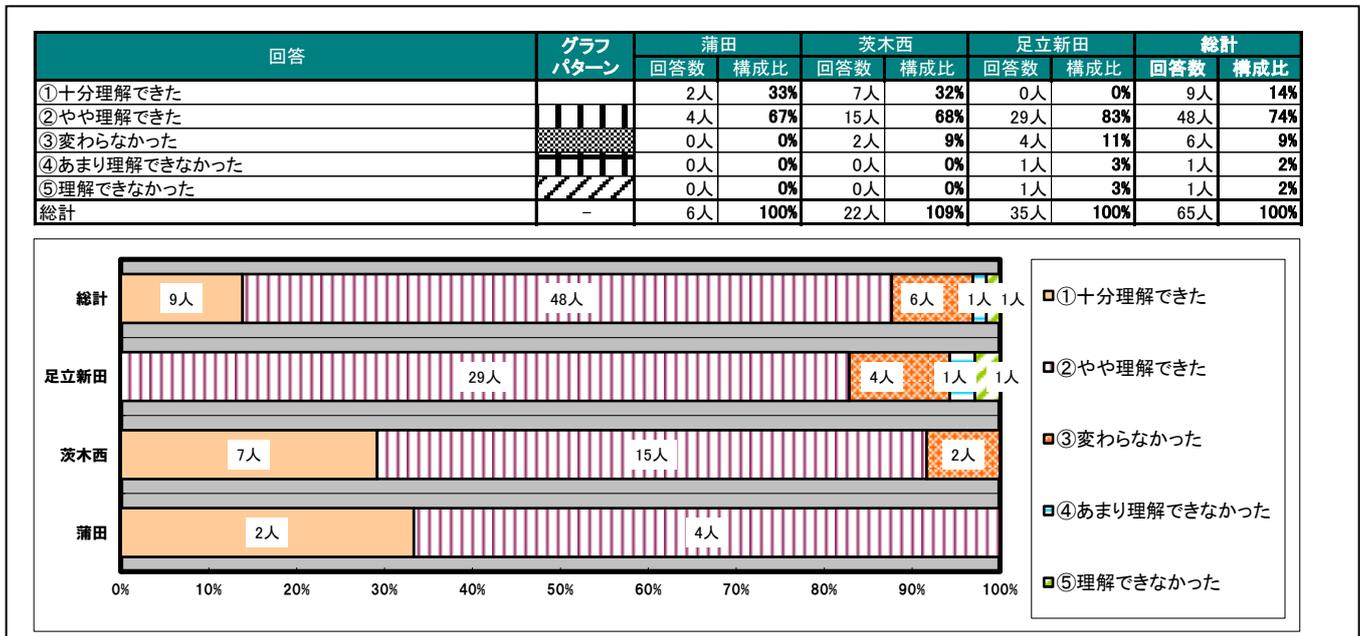
■ 社会保障教育前:A-1. 社会保障について知っていますか？



= 教育前概要 =

「社会保障」という言葉について、「知っている」という理解は、肯定的な回答①・②は合わせて32%、中立的な回答③は合わせて45%、否定的な回答④・⑤は合わせて23%となっている。教育前の段階においても「社会保障」という言葉自体の認知度はそう低くない事が伺える。

■ 社会保障教育後:C-8. 今回の授業を受けて、社会保障の仕組みが理解できましたか？

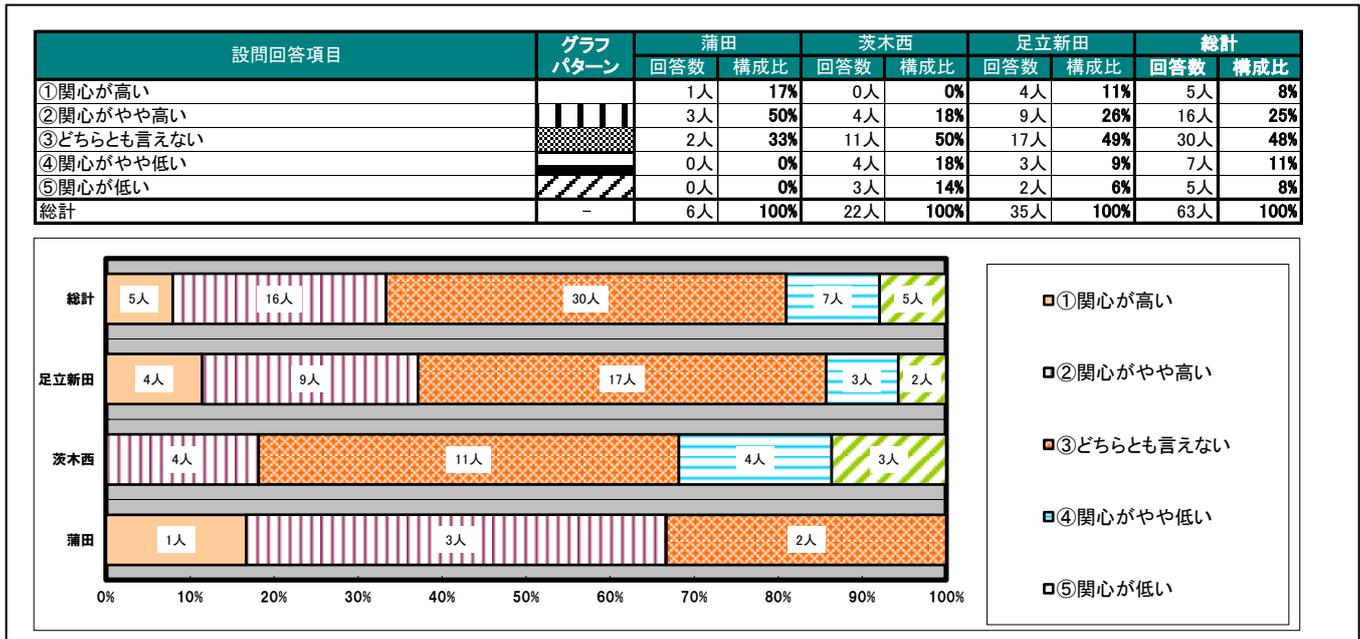


= 教育後概要 =

社会保障教育前の数値に比べて、理解に対して肯定的な回答(①・②)が88%と劇的に増えている。また、「『社会保障』という言葉は聞いた事がある」という中立的な回答が45%から9%まで変化しているという事は、曖昧な理解から、一歩進んだ理解に変化した事が伺える。理解度における効果測定はグラフ対比からも示される様に一定以上の成果を挙げている。

生徒－2_社会保障教育における効果測定(関心の変化)

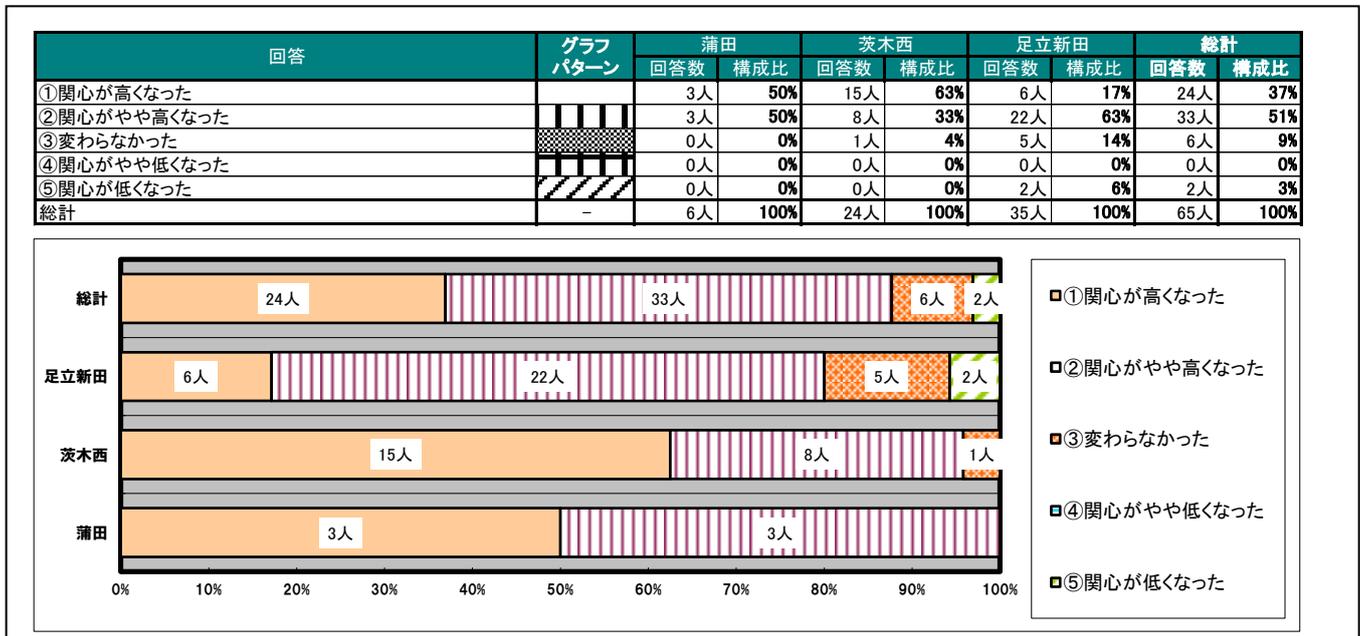
■ 社会保障教育前:A-2. 社会保障について関心がありますか？



＝ 教育前概要 ＝

「社会保障」についての関心は、教育前ではやはり中立的な回答(③)が過半数近くを占めている。肯定的な回答(①・②)と否定的な回答(④・⑤)の総和を比較すると、前者が32%、後者が19%となっており、生徒－1の「理解」に対する回答姿勢とほぼ同じ傾向である事が読み取れる。

■ 社会保障教育後:C-7. 今回の授業を受けて、社会保障について関心が高まりましたか？

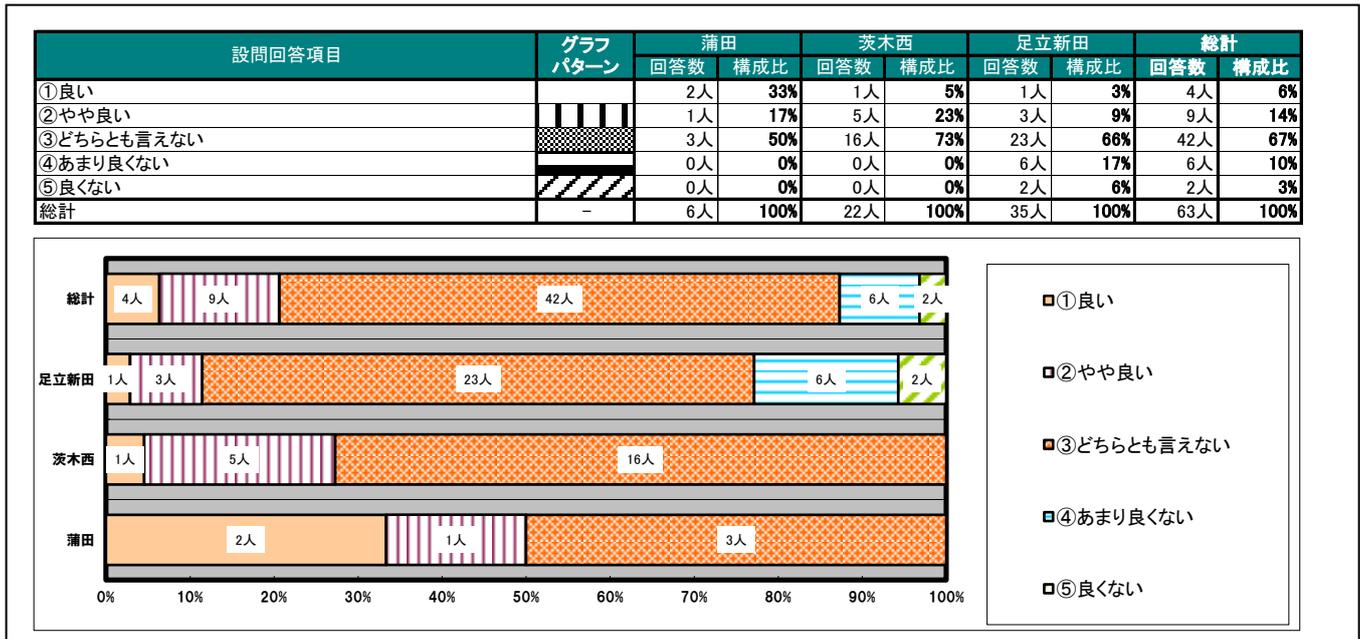


＝ 教育後概要 ＝

教育後の結果についても、生徒－1の「理解」と同じ様な数値の推移がグラフ対比で確認できる。中立的な回答(③)は大幅に減回答、否定的な回答(④・⑤)の回答も減少し、肯定的な回答(①・②)に流れる結果となった。肯定的な回答内訳を見ると①の増加数が、「理解」に比べて増加した%値が高くなっている。今回の社会保障教育では、一連の授業後に「理解」よりも「関心」が強まった傾向にあると理解できる。

生徒－3 社会保障教育における効果測定(イメージの変化)

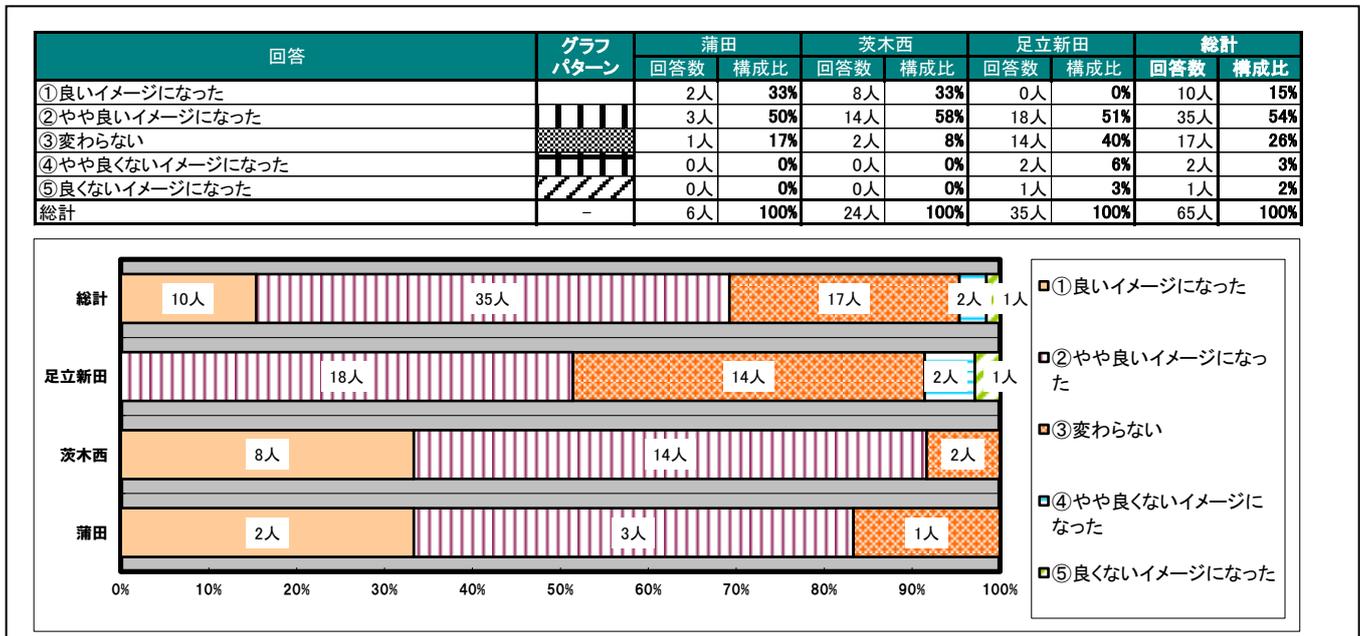
■ 社会保障教育前:A-3. 社会保障に対するイメージは？



＝ 教育前概要 ＝

「社会保障」についてのイメージは、教育前ではやはり中立的な回答(③)が過半数近くを占めている。肯定的な回答(①・②)と否定的な回答(④・⑤)の総和を比較すると、前者が20%、後者が13%となっている。社会保障教育前は、中立的な回答が多数を占める傾向にある。

■ 社会保障教育後:C-9. 社会保障に対するイメージは変わりましたか？

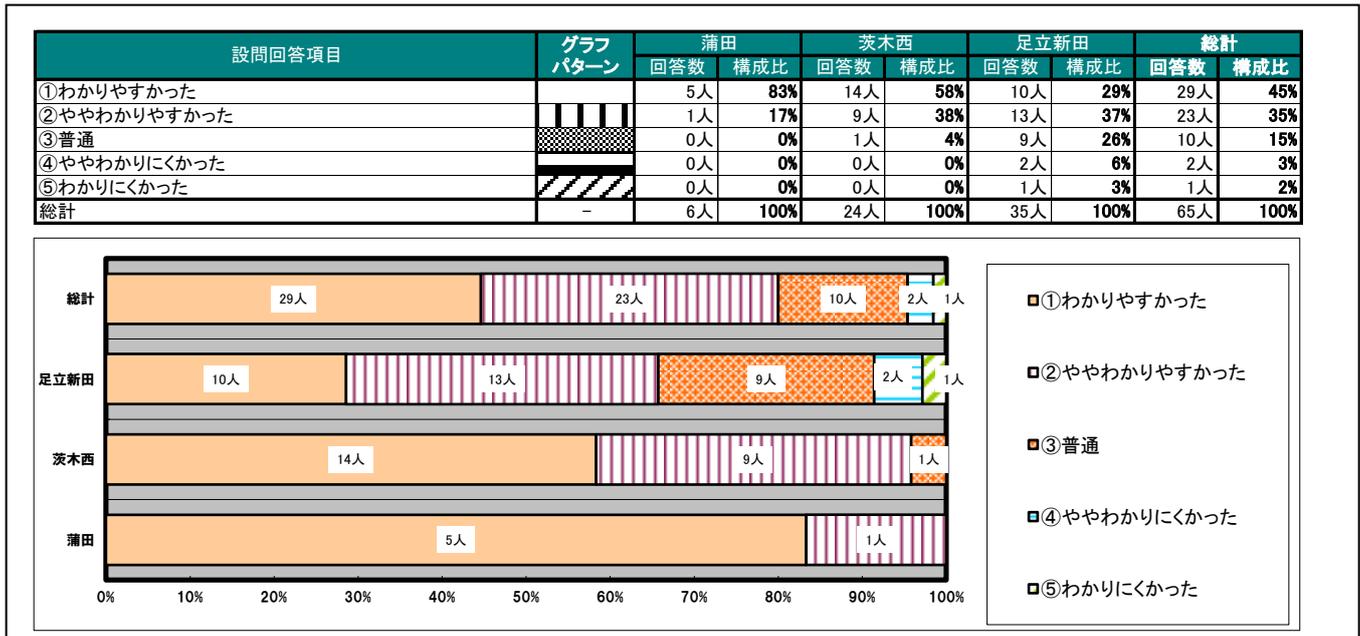


＝ 教育後概要 ＝

教育後の結果については、中立的な回答③が26%と大幅に減少し否定的な回答(④・⑤)も5%と減少、肯定的な回答(①・②)に流れた。この結果を見ても今回の社会保障教育によって、「理解」、「関心」と同様に社会保障のイメージが著しく良くなっていることがわかる。

生徒－7_今回の社会保障教育で使用した教材についての意見・感想

■ 社会保障教育後:B-10. 今回の授業で使用した社会保障教育の教材はわかりやすかったですか？

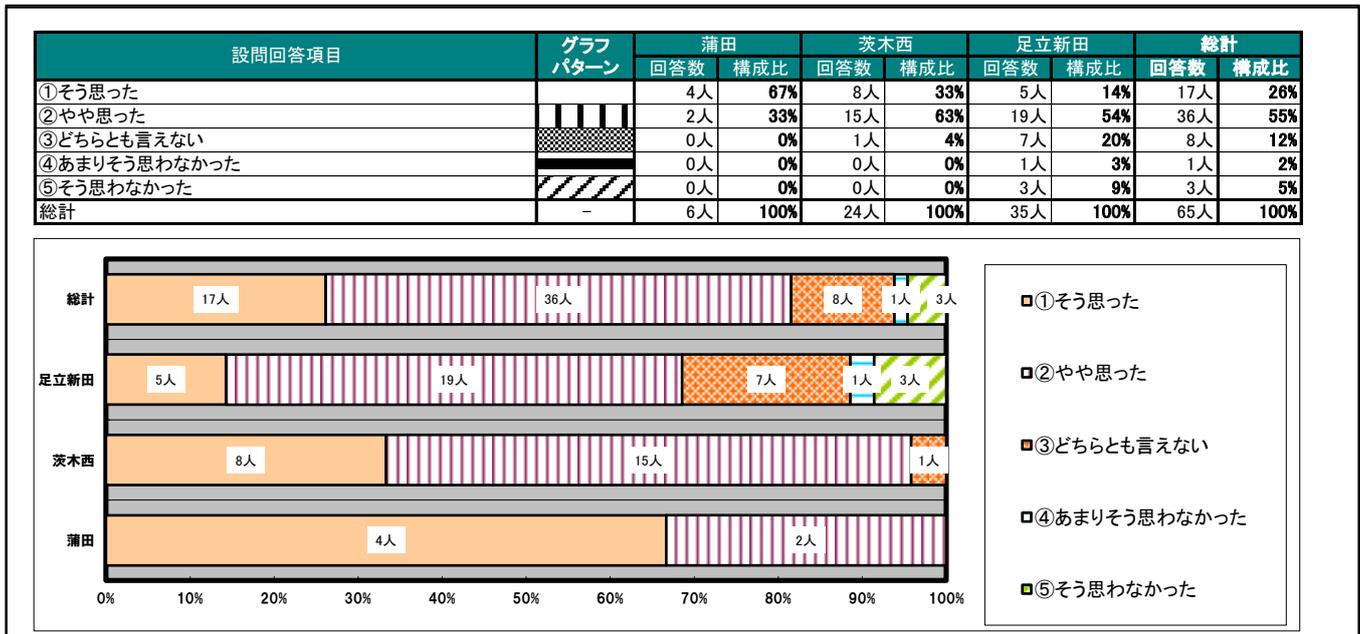


＝ 教育後概要 ＝

今回使用した社会保障教育の教材について、肯定的な回答(①・②)が80%、中立的な回答(③)が15%とかなり高い割合で数値が出ており、今回生徒にとっては非常に理解しやすい教材であったことが結果より読み取れる。

生徒－9_今後の社会保障学習に対する意欲について

■ 社会保障教育後:C-11. 今後もこのような社会保障に関する学習に取り組みたいと思いませんか？



＝ 教育後概要 ＝

教育後、社会保障の学習に関しての継続的な取り組みについて肯定的な回答(①・②)は81%と割合は高く、一方で否定的な回答(④・⑤)は7%と低い。この結果から社会保障の教育によって生徒の関心や認知度が高まると同時に、社会保障に対する継続的な理解の意識が高まったことが伺える。

生徒－4_教育後の社会保障全般への意見・感想

■ 社会保障教育後:C-12. 社会保障全般について、どう思いましたか？

コメントの傾向毎に“肯定的”・“否定的”にそれぞれ分類してコメントを纏めた。

◆ 肯定的なコメント

No	コメント内容
1	知らないことが原因で、間違っただけの思い込みや誤解があると思うので、このような授業はとても勉強になった。 これから大人になる上で理解しなければいけない事なので、私たちに何が出来るのかを考える機会が持てて良かった。
2	車イスの助成制度があることや、自動車改造費助成制度などの制度があることがわかった。 障害をもっている方には必要な制度がたくさんあることもわかった。
3	社会保障は難しく別に興味はないと思っていたが、授業を受けて少し興味を持てた。生活保護についてもっと知りたいと思った。
4	社会保障制度について全然知らなかったので、良くわかった。
5	生きていく上で必要なことだと思った。この授業を受けて、社会保障がどんな制度なのか中身を知ることができて良かった。
6	すごく関心を持った。
7	最初はよくわからないことばかりで理解できなかったけれど、授業を何回か受けるに従ってわかってきて、とても大事なことだと思った。 日本に住んでいる全員に関係することなので、みんなきちんと理解する方が絶対良いと思った。
8	どんな事に社会保障が使われているか、もう少し知りたくなった。
9	社会保障の仕組みを以前よりもっと理解して、とても良いイメージになった。高齢者のためだけの制度と思っていたが、 3回の授業を受けてイメージが一新した。 社会保障費は年間の歳出のうち結構な量を占めているので、これを打開するには少子高齢社会から脱脚する必要がある。
10	この授業を受けてより関心が深まった。
11	難しいけど、関心が高まって良かった。
12	色々難しいと思っていたけど、よく理解できた。
13	こういった保障があることを知らなかったので、知ることができて良かった。もっと詳しく知りたいと思った。
14	今まであまり関心がなかったが、いずれは必要になることだから勉強になった。
15	色々すごいと思った。自分が大人や高齢者になったら、どうなるのかを考えるきっかけになった。
16	制度が難しい。それに、対象となる人の基準が難しかった。
17	いろんな施設があって、いろんな制度があるのだと初めて知った。
18	社会保障はとても大切で、欠かせないと思った。みんなが利用していて、無いといけないうものだった。
19	障害を持っている方への保障がたくさんあり、暮らしやすくなっていることを感じとれた。
20	もっといろんな人の意見も聞いて、どんどん改善してほしいと思った。
21	全ての人々が「普通」に暮らし生活を営むために、いろいろな保障が必要だと思った。
22	障害を持っている人が安心して、かつ、過ごしやすい生活ができるようになっていて、すごく良い制度だと思った。
23	社会保障は色々な制度があるけど、障害者向けの制度が少ないと思った。昔よりは良くなったと思うが、もっと良くなってほしいと思った。
24	社会保障に対して、あまりわからなかったけど、良いイメージがついた。障害者の方にとって助成制度などはすごく助かると思った。
25	やはりとても大事なことだと思った。毎年、制度が変わると聞いたような気がしてとても大変だと思った。 もっともっと社会保障制度が良くなれば良いと改めて今日思った。
26	社会保障は障害を持っている人だけではなく、私たちにとっても必要なものだった。
27	国の制度のなかで一番大切な制度だと思った。
28	もっと社会保障を良くすれば日本はもっと良い国になると思った。
29	今日は社会保障について勉強したが、社会保障が我々の暮らしにどう影響するのかが良く分かった。
30	とても大切なことだと思った。
31	年金など自分たちの将来に必要なことがいろいろあるということがわかった。税金はきちんと払おうと思った。
32	とてもありがたい制度だと思った。

◆肯定的なコメント

33	日本の社会保障は、結構手厚い制度ということがわかった。
34	色々、良くできている仕組みだと思った。
35	最初は詳しく知らなかった。授業を受けてなんとなく知った。そして、実際に障害者の話を聞いてさらに知ることができた。障害者と話すのは初めてだった。良い体験になった。
36	まだまだ学べることがあると思うし、障害者たちの話も聞いて良かった。
37	社会保障について、以前に比べてすごく理解できるようになった。 全体的に障害を持った方は、あまり不便なことがないとおっしゃっていたので、それだけ良いのだなと思った。
38	私が話を聞いた障害者は、不便なことが全くないと言って、毎日楽しそうだった。不便な点を聞きたかった。
39	介護士のこととか知ることができて良かった。
40	自分の将来に役立ちそうだなと思った。障害者の話を聞いてイメージが少し変わった。
41	もっと関心を向けるべきだと思った。
42	健康でないといけなと思った。日本は貧乏だけど、アメリカみたいに弱肉強食の世界になるよりは、いいと思う。 しかし、もう少しお金持ちになったらいいのと思う。
43	体の不自由な方にお金を使ったり支援をする上で、色々の良い意味で社会保障制度を多角的にしてもらいたいと思った。
44	今か老後かの選択肢が難しいと思った。外国と日本との差が激しかった。

◆否定的なコメント

No	コメント内容
1	社会保障に対して、不満に思うことが多々あった。
2	社会保障は不十分。
3	私たちがおばあちゃんになる頃には、この制度がどういう風に変っていくのかが不安。
4	今の日本では安心できる保障ではないと思った(特に年金)。
5	社会保障の仕組みはいろいろと複雑で難しい。

= コメント総括 =

今回の社会保障教育を行う事により、社会保障の仕組み/制度へ言及しているコメントが多くみられ、今回の一連の教育が社会保障自体への関心の促進に寄与する結果となったと言える。また、一方で理解に対しては、教育後のアンケートにも関わらず“難しい”との意見が見受けられた。社会保障教育の啓発活動としては、一定の成功を収めたと考えられる。

生徒－5_社会保障に対する授業(グループワーク、ディスカッション等)への意見・感想

■ 社会保障教育後:B-4. 授業(グループワーク・ディスカッションなど含む)を受けた意見・感想

コメントの傾向毎に“肯定的”・“否定的”にそれぞれ分類してコメントを纏めた。

◆ 肯定的なコメント

No	コメント内容
1	いろいろな意見があって楽しかった。とても良かった。
2	様々な意見が聞けて良かった。自分たちで調べるから、より深まった。ぼんやりとしていた”社会保障”についてよく分かった。
3	グループワークをしたことによって、協力することや、意見などが言いやすくて良かった。
4	何が一番大切なのかななどをみんなで考えて年金だということになり、年金は大切だと改めて感じた。
5	みんなそれぞれの意見があった。グループワークができて良かった。すべて大切だと思った。
6	人と話し合っ、色々な意見を聞いたのでよかった。保障の大切さがわかった。
7	私だけだと全く意味が分からなかった。もっと社会保障について知りたくなった。
8	みんなで話し合えて良かったと思う。今まで気にしてなかったことを良く知れたと思う。
9	いろいろな意見が聞けて良かった。老後の心配をみんなしていると思った。年金が支払われなくなってしまうたら困る。
10	保険のこと色々わかって勉強になった。とても楽しかった。
11	自分以外の意見などが聞けて良かった。社会保障の事が何も分からないという事も分かった。
12	まとめるのが難しかった。社会保障はなくてはならないと感じた。
13	社会保障についてまったくわからなかったけど、今日ちょっとわかった気がした。話しあって結局は全部大事だと思った。
14	社会保障はいろいろあるなと思った。むずかしかったけど、みんなで協力して楽しくできたのでよかった。
15	今回の授業では自分たちが実際に目の見えない状態になり、案内人に丁寧に行き先を教えてください体験学習をした。 ありがたいことなんだなと思った。
16	ブラインドウォークをしたり、車椅子に乗ってからだが不自由な人の気持ちを体験して、私たちからすればすごく大変で不自由だなと思った。 でも、不自由な人たちにとってはそれが日常であり当たり前なんだなと思った。私達も苦手な事、出来ない事があるのと同じように不自由な人も見えなかったり、動けなかったりするのかなと思った。
17	今日は目が見えない体験をした。また、車いすなどを含めた授業をした。今日の授業で気づかされたことは愛というのはものすごく大事だなと思いました。親やたくさんの方々を支えられて今こうして僕たちは生きているのだと思った。これから自分たちはもうすぐ3年生、針路を決めなければいけないときがやってくる。今日自分がこの愛という言葉をお忘れず、高校生の今、また卒業して大人になっても、他人や自分は愛されているということを考えて人生を歩んでいきたい。目の見えない人達がどのように生活しているかがあらためてよくわかった。
18	生きていく上で支えになるものが確実に必要であり、それを作っているのは、人であるという事が分かった気がする。 人は一人で生きる事はできないんだなと思いました。だれかと支えあうことで初めて「人」になるのだと気付いた。
20	分かりやすかった。
21	年金、保険や社会保障のしくみを詳しく知ることができた。
22	ビデオなど使っていてわかりやすかった。ノートに書く量が多い。
23	今まで知らなかった保険などの話を聞くことができてとても為になった。
24	社会保障についてもっと興味がわいた。
25	分かりやすい授業だったので少し理解できた。
26	自分がこれから関わってく社会の話やお金のしくみを知ることができたためになった。
27	パワーポイントやビデオなどでとてもわかりやすかった。
28	社会保障について少し理解できた。医療費なども国が負担してくれているので、少しでも安いお金で受けられると思った。
29	少し授業展開が早かった。でも、理解はできて良かったと思う。
30	なんとなくしか、知らなかったことを学べて良かったです。色々勉強になった。

◆否定的なコメント

No	コメント内容
1	どれが公的扶助で社会福祉で医療及び公衆衛生なのか、はっきり区別がつけられなかった。
2	難しい言葉が多くて眠くなってしまった。
3	ちょっと難しい
4	年金がちゃんと支払われるか、病気や事故などが心配。
5	みんな年金が心配だった。ちゃんと払っているのに将来払われなくなったらいやだなと思う。
6	みんなそれぞれ心配なことがあって、でもその中で一番心配なことは年金であった。
7	仕分けるのはむずかしかった。言葉は聞いたことがあるのでわかっていたつもりだったが、全然分かっていなかった。
8	まだわからない部分が多かった。
9	大人になるって難しい。
10	普通以上でも以下でもない授業だった。

= コメント総括 =

グループワークやディスカッションを行ったことにより、個々人の情報を参加者全体で共有する事による社会保障への共通認識構築がイメージの向上に繋がった結果と思われるコメントが多数見受けられる。また体験学習によって被社会保障側の立場を理解することによって、社会保障の意義も勉強できた側面もイメージ向上に繋がると考えられる。一方で“年金”というキーワードにおいては、一定数の否定的なコメントが散見し、将来的な不安要素としているコメントも見受けられた。

■ 社会保障教育後：B-5. 授業を受けた意見・感想をご自由にお書きください。

コメントの傾向毎に“肯定的”・“否定的”にそれぞれ分類してコメントを纏めた。

◆肯定的なコメント

No	コメント内容
1	いろいろな保険があるんだと分かった。社会保障のことが前より理解できた。
2	ほんやりとしていた“社会保障”についてよく分かった。税金がただとられていると思うのではなく、こんな事に使われていると理解できて良かった。
3	今からしっかり勉強していこうと思います。今、学んだことを、大人になって生かしていきたいです。ビデオをみることで、より勉強になり頭に入る。
4	社会保障や保険について知ることができた。保険などの種類が多いから、しっかり意味を理解しないといけないと思った。
5	いろいろな保険があることが分かった。払うお金が多くて大変だと思った。
6	社会保障の中にも、たくさんさんの保障があり、私達の生活をささえていることがわかった。
7	やっぱり社会保障は難しく、あまりよくわからなかったけど大事だということは分かった。
8	給与明細の見方が難しかった。もっと税金について知らないといけないと思った。
9	前回より社会保障のことがちゃんと理解できた。知れてよかったと思う。
10	知らないことがたくさんあったけど、今回の授業で少し理解できたと思う。自分自身に関係することだから、もっと知ろうと思う。
11	いろんな保険、税金のことが知れてよかった。
12	今日は社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生についてよりわかった。
13	社会保障のクイズを全問正解できた。この授業で社会保障についてしっかり学べてよかった。
14	グループワークをした時は、自分たちの考え意見などで、「どれが」「たぶん」「これで」などあいまいな感じだったけど、今日ははっきりとした答えが分かり前よりスッキリとした。
15	難しかった。ちゃんと税はおさめていかないとダメだと思う。人々は助けあって生きているのだと思った。 本当に社会保障はいろいろあると思った。よくわからなかったけど、ちょっとわかった気がした。

◆肯定的なコメント

16	社会福祉などの中身はたくさんあって難しかった。でも学べてよかったと思う。
17	2枚ほど配られたマンガも大事なことがたくさんかいてあったので、すごくタメになった。あと映像(ビデオ)もすごく分かりやすかった。
18	前回の授業より、社会保障についてよくわかった。もっとくわしく知っていけるように、いろいろ調べたい。
19	わかりやすかった。
20	前よりも、もっとよくわかった。プリントと先生の授業で興味を持った。
21	社会保障制度のことは以前から聞いた事があったが、詳細な仕組みなどを知り高齢者を支える年金など重要な役割を果たしているという事が分かった。しかし、大きな問題点は働き手が少なくなるということです。少子高齢問題を解決するのが先決だと思った。
22	国の制度についてよく理解できたし、制度は将来の自分や国のためになると思った。
23	今日は消費税などいろいろと話し合った。自分が生活保護を受ける立場になって考えてみると、やはり消費税を上げる事に賛成である。
24	社会保障について勉強できてとても楽しかった。
25	将来について考えるきっかけが出来てよかった。
26	口や歯の体操がすごかった。でもそれだけでおいしく食べられるならいいと思う。QOLは大事である。
27	高齢化社会の中で私達がどう行動するかによって未来が変わると思った。介護が必要な人をどんどん元気にしていこう。 65歳を過ぎても元気な人が大勢いるので、そういう人がいつまでも元気でいられるような社会になってほしい。
28	舌の動きが口の中ではとても大切だと知った。舌が使えずのみこめなかったから、舌の動きは手の動きと一緒になんだと思った。 舌や口の中がまひしている人は食べる事が大変なんだという事を知ることができた。口の中を常に清潔にしようと思った。
29	舌の運動を知れてよかった。また、舌がどれほど大事なのかを知ることができた。
30	とろみのつけたお茶がとてもまずかった。舌や歯の大切さを感じた。おいしいご飯を食べるためにも、ケアが大切だと思った。
31	年々少子高齢化が進んでいっていることが分かった。そして、高齢者を面倒見る人が減ってきているので、 年をとっても健康でいられるように気をつけないといけないと思った。
32	今の日本は高齢者が多く、子どもが少ない社会だということを知り、このままだと私たちの世代を介護してくれる人材がいなくなってしまうことを学んだ。 そして口の中はとても大事で、普段から舌をたくさん使わないとおとろえてしまうので、たくさん使うようにしていきたいです。 自分が高齢者と呼ばれる立場になっても、自分の歯で何でも食べられる健康な人でいたいと思った。
33	全体の人口の中で、だんだん高齢者の割合が多くなっているということを改めて実感した。 このままでは、子供の数が減りすぎてしまうということも考えられるので、なるべく子供を産めるような大人になりたいと思った。 お年寄りには口腔のケアが大切だと思った。しゃべるのも食べるのにも舌が必要であるということがわかった。
34	口腔ケアをすることで口の中をきれいにしておくことで、食事をおいしく食べることができ、また歯もきれいにできると知った。
35	社会保険の話で今の日本は年齢の形が逆三角形になりつつあり、とても変な状況だとわかった。
36	少子高齢化社会がひどくなったら、一人当たりの負担が増え、私達が高齢になった時は支援できない状況になるのではという不安があった。 舌や歯の口腔ケアをしっかりすることで肺炎や認知症の改善ができるということにとっても驚いた。元気に生きていくためにも大切だと思った。
37	少子化のグラフを見て、これから子供が減ってしまうのはとても悲しいと思った。私たちの世代が少子化をきちんと受け止め、 子どもを増やし1950年代のピラミッドに戻ってほしい。
38	食べるためには舌を使わないと食べることが出来ないということや、口の中をきれいにすることで健康づくりが出来るとことがわかった。
39	お年寄りが増えていることがよくわかった。お年寄りは増えても生産人口は増えていないから、お年寄りを支える人が減っていることもわかった。 健康なお年寄りが増えるように自分のできるサポートできらいたいと思った。 また、自分の祖母、祖父はよく喋るので少し安心した。もっと定期的に電話しようと思った。
40	今日は地域社会保障の授業を受けて、高齢者がどんな工夫をしているのかが良く分かった。 歯がなくても食べられるものもあつたり、様々な工夫があると感じた。
41	人口ピラミッドのしくみや意味を改めて理解出来て良かった。歯磨きや舌のケアは大切だとわかったので、将来のためにも今からきちんとケアしていきたい。 歯や舌の大切さがわかった。食事は生きていく上で楽しみの一つなのでそれをより楽しめるように、口のケアが必要だと思った。
42	舌が使えない大変さを知った。団塊の世代の人々の年齢があがってきていることを知った。
43	今は普通に好きなものを好きなだけ食べられるけど、歳をとり、おいしくないものを食べると思うと、もっと歯を大事にしていってもおいしく 食べられるようにしようと思った。このような授業を受けなければ実感沸かなかったと思うので、本当にこの授業を受けてよかった。

◆肯定的なコメント

44	口腔ケアというものがどれだけ大切なのか良く分かった。歯みがきだけでは色々なケアが必要だと思った。
45	楽しかった。難しかったけど、わかりやすかった。
46	普段自分から関心を持たない話だったので、とても貴重な話を聞けたと思った。これからは自分から今日聞いたような話題に関心を持っていきたい。
47	ものすごくためになった。
48	知らないことをいっぱい知れた
49	ちょっと難しい話だったから理解に苦しんだ部分もあったけど、知らなかった話ばかりだったので、ためになった。
50	今後必要になると思うから、もっともっと深く知りたいと思った。
51	食べ物を美味しく食べるには筋肉でつくられる舌がとても大事なんだと知った。舌にコケが生えるなんて驚いた。口腔ケアが大事だと知った。
52	口腔ケアの大切さを学んだ。歯みがきする時に舌もきれいにすると良いことを知り、私もしっかりやりたいと思った。
53	知らないことをたくさん知れて良かった。
54	障害者の人たちも気持ちよく暮らせるように社会福祉がある。
55	また色々考えさせられた。税金でなにをしているか気になっていた。
56	歯の汚い人が痛々しく怖かった。老後介護があたりまえになる時代が訪れる時に、社会の変化がどのようになるのかが気になる。
	つねに口の中を清潔にする。少子高齢化の中で皆で元気にいるに、できることをたくさんやる。

◆否定的なコメント

No	コメント内容
1	どこかで聞いたような話ばかりであった。

= コメント総括 =

様々な種類の社会保険がある事を今回の授業で理解が深まったというコメントが多く見受けられた。体験活動については、舌が不自由な状態での食事体験や介護食の食事体験などについて良い経験を得たというコメントが多く見受けられた。また、全体のキーワードとして“少子/高齢化社会”が多く記載されており、体のケアに大切さを学ぶと同時に社会保障と少子・高齢化社会を結びつけたコメントも記載されている。

生徒－6_体験活動(学習)を受けた意見・感想

■ 社会保障教育後:B-6. 体験活動(学習)を受けた意見・感想をご自由にお書きください。

コメントの傾向毎に“肯定的”・“否定的”にそれぞれ分類してコメントを纏めた。

◆肯定的なコメント

No	コメント内容
1	介護の楽な立ち方とか、とてもためになった。いろんな人がいて、あまり不便がない人もいるんだと思った。たくさん施設があると知る事ができよかった。
2	私達と同じ様な生活をされていて、同じ様に生きることを望んでいらっしゃるのだなと思った。距離を感じていたが、近くに感じ、私達とたいして変わらないのだなと思った。
3	授業の終盤になって親近感が出てきた。わかりやすく話してくれるようになったので、よかった。こういう授業をもっと増やしていきたい。
4	とても、いい経験ができた。介護が必要な方が近くにいたら、手助けができるような人になれたらいいと思うようになった。 障害のある方がどのような生活をしているのかを聞くことができ、とても勉強になった。
5	いろいろな話が聞けてよかった。介護の仕方を学べてよかった。私の知らない話も聞けたのでよかった。とても勉強になった。
6	本人に話を聞けて身近に感じた。でも、少し返事が少なかったので、もう少し詳しく知りたかった。
7	実際に話しをきくことができ、とても為になった。普段私たちが話したり、生活してることと、ほぼ同じことをしている事がよくわかった。
8	障害をもっている方のイメージが変わった。すごく明るい方でびっくりした。生活するのに私たちの何倍も大変そうで、もっと助ける人が必要だと思った。
9	実際に障害者の人と話すことができとても良かった。自分が思ってるより障害者の人はしっかりしてし、なんでも自分でできるしすごいと思った。
10	最初はとてもとまどっていたけど、いっぱい色々な事が知れたので、とてもよい経験ができた。障害のある方や高齢者を助けることができればいいと思います。
11	一見、普通に見えても、いろいろな障害を持っていることがわかった。自分たちにできることを一生懸命やっていきたいと思う。
12	話聞く機会はあまりないから、今日しっかり聞いてすごく勉強になった。
13	今後の生活で生かしていきたい。
14	昔よりは障害者たちにとって住みやすい環境だと思うけど、もっともって住みやすい環境にしてほしいと思った。
15	たのしかった。また機会があれば受けてたい。
16	直接かかわれることができよかった。まだまだ学べることがあると思うので、また聞けたらいいと思った。
17	すごく勉強になったし、実際に障害をもっている人と話しをして、社会保障など保険についての関心がすごく持てた。
18	介護食はつまなくていいので楽だった。
19	100歳を超える高齢者が、デイサービスに通って心身ともに健康の状態にしようと努力をする気持ちは大切だと思った。 健康で明るくなじみやすい方たちだった。年をいくらとっても元気が一番だと思う。
20	老人の気持ちになって、その立場を考えることができよかった。歳をとると大変だと思った。
21	今日は老人に関しての体験をやった。実際に体験してみて、足などが動かなかったり腰を長時間曲げるつらさを体験して大変だと思った。
22	自分もその方々(老人)のために力になりたいと思った。
23	お年寄りの自立をうながして元気なところをみた。
24	思っていたよりも、みなさんととても元気だった。とてもよい体験ができた。
25	色々な実験、食べにくかった。たくさんいれた人が前にいたけど(トロミアップ)。すごいやばかった。できればちゃんとした自分の歯で頑張りたい。
26	お茶の味は変わらないけど見た目の口唇についた感じがすごく嫌な感じだった。お年寄りのご飯はもっとまずいかと思ってたが味付けは普通の人のものとほぼ一緒でおいしかった。どれもすごく柔らかくてほとんどか噛まなくても飲み込めた。口腔ケアはおじいちゃんにやってあげようと思った。
27	介護者が食べる食事は離乳食みたいだと思った。でも、思ったよりも味がついていたので、意外と食べられた。 トロみがあるお茶は、トロみが増すほど味が薄くなった。えんげ体操というのがあって意外と楽しかった。
28	私は食事に関してあまり考える事がなかったが、この体操をとおして様々な事を学ぶことができた。
29	今回経験した内容はこれからの人生で生かせるようにしたい。舌の動きの大切さを改めて知りました。とろみをつけたお茶がまずかった。
30	とろみを使った緑茶はおいしくなかった。やわらかいごはんは意外とおおいかった。でも普通のごはんが食べたいと思った。

◆肯定的なコメント

31	お茶はおいしくなかった。とろみがつくと口の中で少し止まっていて、すぐに流れていかないと思った。 お年寄りが食べるご飯はおいしくないと思っていたが、意外とおいしくびっくりした。離乳食と似ていると思った。 舌運動などを体験して、舌はとても重要な役割をしているということを改めて実感した。良い勉強になったと思う。
32	トロミアップでとろとろしたジュースはまずいが、飲みやすくするための工夫だと勉強することができた。
33	舌が動かさないと飲み込む事もできなかったのがとても驚いた。
34	今日の授業では高齢化のことを学び食や口腔など幅広いことを学べたのでよかった。体験をしてみて、 高齢者にとって食べるということは難しいことだと学べた。また私は将来はリハビリの仕事につこうと思っているのでしっかり学んでいこうと思った。
35	気がつかないうちに口の中ではたくさんものがたくさん働いているんだなと思った。 1つのものが働かなくなっただけでこんなに苦戦するとは思わなかった。食事はこれからも楽しく食べていきたい。
36	実際に高齢者のための柔らかい食べ物を始めて食べてみて、ほとんどかむことなく食べられることがわかった。
37	トロミアップを入れたお茶は気持ち悪かった。お年寄り向けの食品は柔らかくて食べやすかったけどちょっと味が濃いと思った。 自分の歯をきれいにして健康な歯でいればこれを食べることもないと思うので、いつまでも美味しい肉を食べられるよう、歯を大事にしようと思う。 今日はありがとうございました。
38	口腔ケアは、なにが大切なのか、どんな効果があるのかなど普段気にしないようなことを学ぶことができた。自分にも関係ないと思わず、 将来関わってくることなので良かった。
39	舌が上手く使えないと、物が食べられなくて驚いた。物をかめる喜びを感じられた。普段の当たり前のことを大切にしたい。 物をよくかむ習慣をつけたいと思った。にんじんやじゃがいもがとてもやわらかかった。飲み込みやすかった。
40	あまり変わらなかったけど美味しくなかった。介護食の肉じゃがは美味しかった。
41	あまり入れなかったけど少量でもあまりおいしくなかった(お茶)。おいしそうな匂いだったけど、あまりおいしくなかった。 でも筋肉使わずに飲み込めた(にんじん) 味付けが薄くて食べた気がしなかった。
42	お茶は普通に飲みたかった。とろみが有り、あんかけみたいだった。舌の存在はとても大切だなーって思った。 口の中をきれいにする。きれいにしとけば老後でもちゃんと歯が残るということがわかった。必要なことは、健康でいることである。
43	気持ち悪かった。自分たちは楽に飲める水なのに、飲むのが大変なんだと思うと不思議だった。
44	実際に舌が動かなくなったり、お年寄りの身体に似た状態になってみて、大変さがわかった。
45	今日の体験を通して、口腔ケアの重要性がわかった。舌がこんなに重要なはたらきをしているとは思わなかった。 おかゆなども開発されていて驚いた。
46	グミとビスケットの食べ方で、少しいつもと違うだけでこんなに食べづらいんだなと思った。お茶はとろみをつけすぎたのがダメだったけど、 とてもまずかった。舌のはたらきが弱い人でも食べられてるおかゆは食べやすくておいしかった。
47	舌を使うのはとても大事だと思った。割りばしはさんと、舌を動かさなくしたら、つばが飲みにくくなった。試食したものはあまり噛まずに食べられる。 意外に美味しかった。
48	えんげ体操がここまで入念にやらなくてはならないことを初めて知りました。寿司や親子丼風がとてもおいしかった。かまなくても食べれた。
49	普段の自分の感覚とは全くちがうものを経験できた。現在の当たり前に使える歯、口の機能がすばらしいものであることを実感した。 より長く良い状態でいられるようにしていきたい。
50	何が不便なのかわからなかった。決められていることをして、生活をしているだけで、内容はふつうの人とかわからないんだと思った。 色んな施設を回っているんだと思った。
51	今日の障害者の話を聞いて、私達と生活のことや好きなことは、ほとんど一緒だった。
52	高齢者の目線を体験して少し辛かった。

＝ コメント総括 ＝

障害者の方とのふれあい体験について、生徒が思っていた以上に障害者の方々が明るく自立して生活していることがわかり、また話をすることにより親近感を持った生徒のコメントが多数見受けられた。
体験活動についてはB-5と同様に、舌が不自由な状態での食事体験や介護食の食事体験などについて良い経験を得たというコメントが多く見受けられた。
この体験を通してやはり歯や舌の大切さや食事をおいしく取れることのすばらしさを感じたといったようなコメントもあり、生徒へ良い影響を与えたことがよくわかる。否定的コメントについては特に見受けられなかった。

生徒－8_ 今回の社会保障教育に対する全般的な意見・感想

■ 社会保障教育後：C-13. 授業や体験活動、教材に関する意見・感想をご自由にお書き下さい。

コメントの傾向毎に“肯定的”・“否定的”・“不明”にてそれぞれ分類してコメントを纏めた。

◆ 肯定的なコメント

No	コメント内容
1	全然知らなかったのに、話を聞いたり実際にやってみたりして少しわかったので良かった。
2	直接障害者の人にふれ合える事で近く感じる事が出来た。ただプリントを読むだけでは感じられない事を感じる事が出来て良かった。 興味を持てたので、教材もしっかり読みたいと思う。
3	今回授業を受けて知らなかった知識を知ることができてよかった。初めてこういう体験をしてみて、とてもいい勉強になった。
4	関心をもつことができたし、知らないことがたくさんあった。もっと勉強してみたいと思った。
5	体験するとわかりやすいし、おもしろく学ぶことができた。
6	とても良い人でやさしく、詳しく教えて下さって、とてもうれしかった。
7	色々な話がきけて良かった。障害をもっている方に対してもっと暗いイメージを持っていたが、すごくニコニコ笑っていて楽しそうで明るい方だった。 ヘルパーさんがすごくいい人で、ヘルパーさんの力で高山さんも明るくたのしくすごせてるんだな、と思った。もっと話きたかった。
8	教材など分かりやすく書いてあった。とても良い体験になって良かった。聞く前より知識が増えて良かった。
9	知らないことばかりで、もっと知ることが大切だと思った。これから学んでいきたいと思う。
10	話たくさん聞いてよかったし、またこういう機会があったらいいと思う。
11	楽な立たせ方など教えていただいたので、また機会があればしたい。
12	保育には関係なかったけど、社会人になる上での知っておくべき。なので学べてよかった。
13	もっともっと障害者の人たちが住みやすい環境になって欲しいと思った。
14	たのしくお話することができてうれしかった。山下さんは1人暮らしをしていて、しかも介助などは受けていないのすごいと思った。 またこの様な機会があったらいいと思った。
15	より関心を持てた。障害があっても同じ人間なので、これからも大変そうにしている人を見たら、手伝ってあげたいと思った。とても勉強になった。
16	また今回のような授業をしてほしい。
17	実際にお話しもして見て、すごく勉強になった。
18	少し関心を持った。また機会があれば学びたい。
19	親近感のある授業。もう1度こういう授業を受けたい。学んだことが少なかったのが残念。
20	3回目の授業は、最初どうしようと思っていて、どこまで聞いたらいいのかとか、とまどっていたけれど、始めてみると障害があるからって普通の人と変わらないなと思った。ちょっと介護の仕方もわかったしよかったと思う。
21	立ち方とか本当に立ちやすかったし勉強になった。話せてよかったと思う。
22	初めての体験で緊張したけど、なごやかな雰囲気ですわせたと思う。
24	老人の体験をしたり、目かくしの体験をやってやっぱり人を大事にする、仲間を大事にすることはいかにも大事とわかった。
25	グループワークで楽しく制度について学べたと思う。社会保障についてもっと興味が湧いた。
26	気になるものが増えた。また受けれるなら受けたいと思う。
27	とても、良い人でやさしく、くわしく教えて下さって、とてもうれしかった。勉強になった。今までちゃんと社会保障について学ぶことがなかったので 社会保障とは具体的に何をやる事なのかよくわからなかった。しかし今回社会保障についてしっかり学べたのでよかった。
28	取材班や厚生労働省などの役人の人たちも来て少しやりづらいいというのあったが、内容(プログラム)は充実していたと思う。
29	分かりやすくてよかった。でも授業展開が速かった。
30	ビデオがわかりやすくて良かった。
31	パワーポイントが分かりやすかった。
32	大人になってカードや奨学金などで気をつけなければならない事がよくわかった。
33	プリントが少し見づらかったけど内容はすごく良い。
35	もっと詳しく、やさしく教えてほしい。
36	何も知らなかった。少しよくわからなかったが大抵は理解できた。
37	いずれ自分に関わる事だったら、もっと知識をつけたいと思った。

◆否定的なコメント

No	コメント内容
1	実際体験してみて思ったよりも普通の人だったので、何が不便だったのかもわからなかったし、聞くからには生活の保護があるだけで、あとは普通の生活をしているよう思ったので、社会保障や生活保護のしくみや基準がわからなかった。難しかったし、会話がはずまなかった。
2	ちょっとむずかしい。

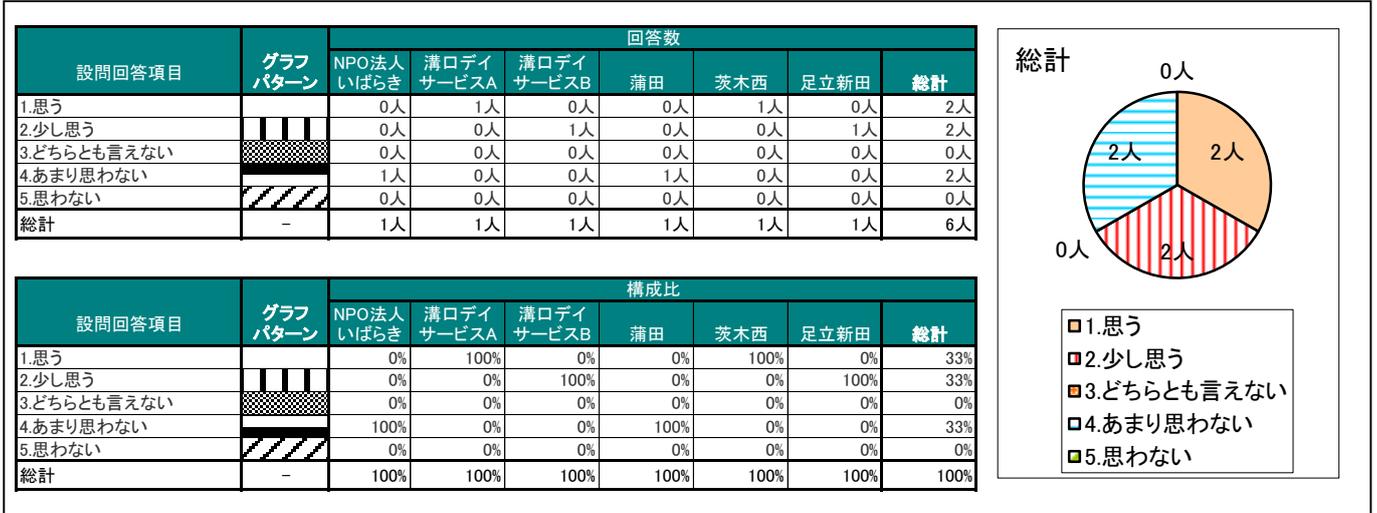
= コメント総括 =

今回の社会保障の授業や体験活動についての総評コメントとしましては、直接障害者の方々と触れ合い、色々な話が聞くことができ、非日常的な体験に対して肯定的なコメントが多数見受けられた。また体験学習のなかで介護の方法などを理解し、覚えることができ勉強になりとても良い経験を得たというコメントも多く、体験学習を通してより社会保障に対する関心が高まり、より知識を深めたいという意欲が生徒達に見られる傾向が見られる結果となった。

総括としては、今回の社会保障教育の理解に対しては難しいという印象は残るものの、社会保障自体への関心やイメージを高め、それについて学ぶ意欲を引き上げる効果がある事と推測できる。

教師・講師—1_教師・講師から見た、生徒の社会保障教育における効果測定(関心の変化)

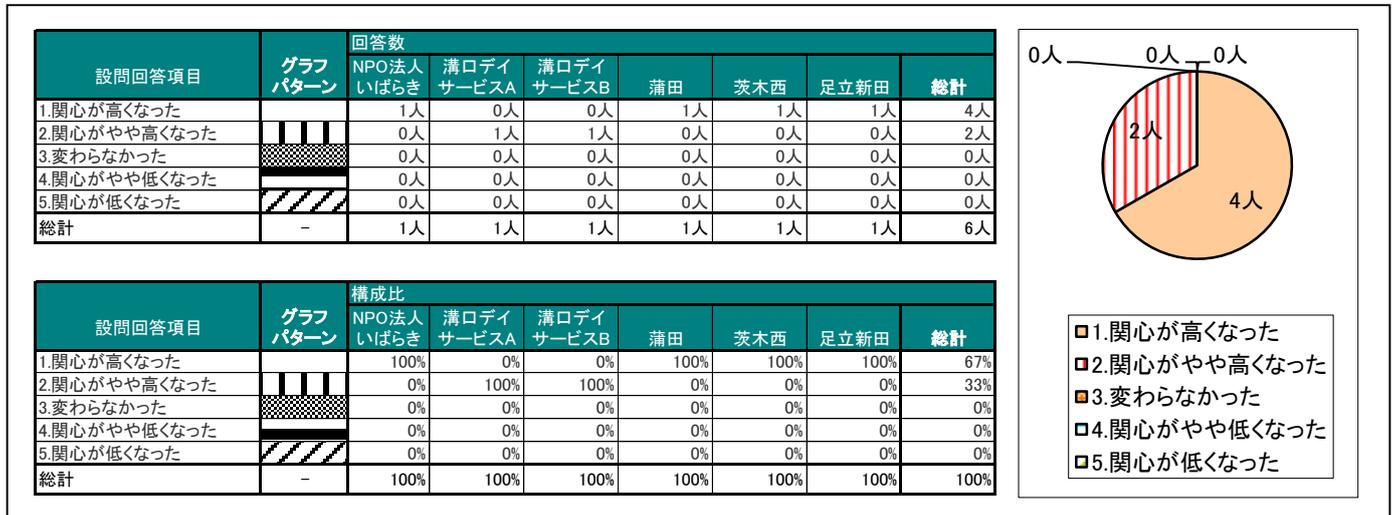
■ 社会保障教育前:A-1. 生徒は社会保障に関心を持っていると思いますか？



＝ 教育前概要 ＝

生徒への教育前においては(教師・講師)6人中、肯定的回答が4人、否定的回答が2人と、比較的生徒に対して社会保障への関心について期待感が伺える。

■ 社会保障教育後:C-4. 今回の体験活動を実施して、生徒の社会保障への関心度が高くなったと感じますか？

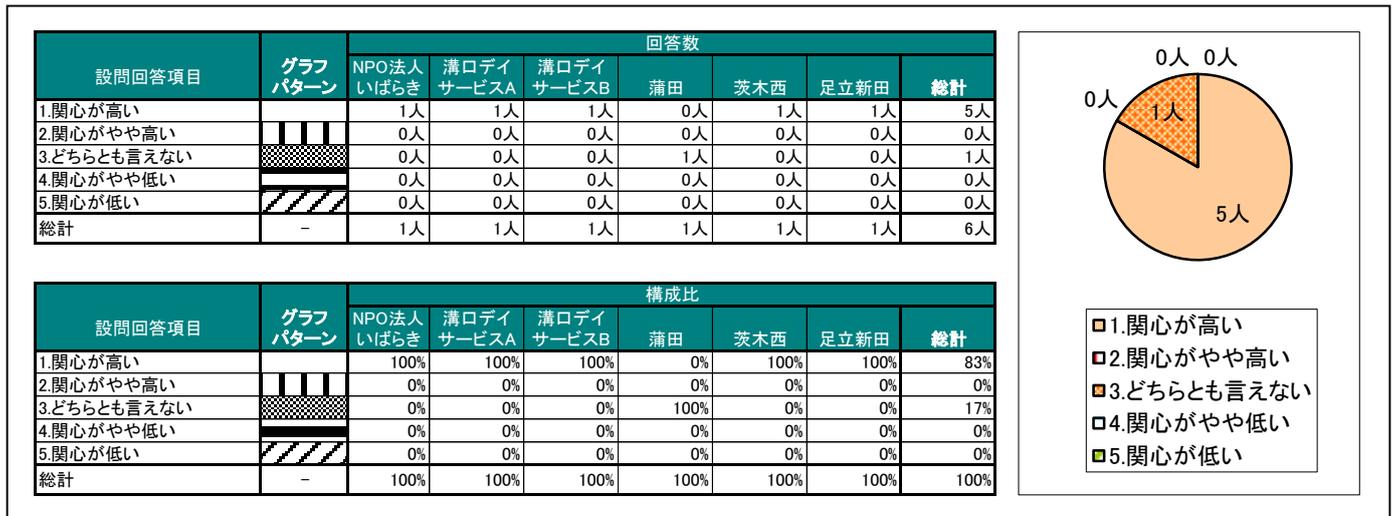


＝ 教育後概要 ＝

生徒への教育後、(教師・講師)6人中6人において生徒の社会保障に対する関心が高くなったと感じている。教師・講師から見ても教育後の生徒達の変化が感じ取られていることがわかる。

教師・講師－2_教師・講師の社会保障教育の効果測定(関心の変化)

■ 社会保障教育前:A-2. ご自身は、社会保障に関心がありますか？



= 教育前概要 =

生徒への教育前、(教師・講師)6人中5人が社会保障に関心を高く持っており、教育側の関心は授業前から高いことが伺える。

■ 社会保障教育後:C-10. 社会保障について、どう思いましたか？

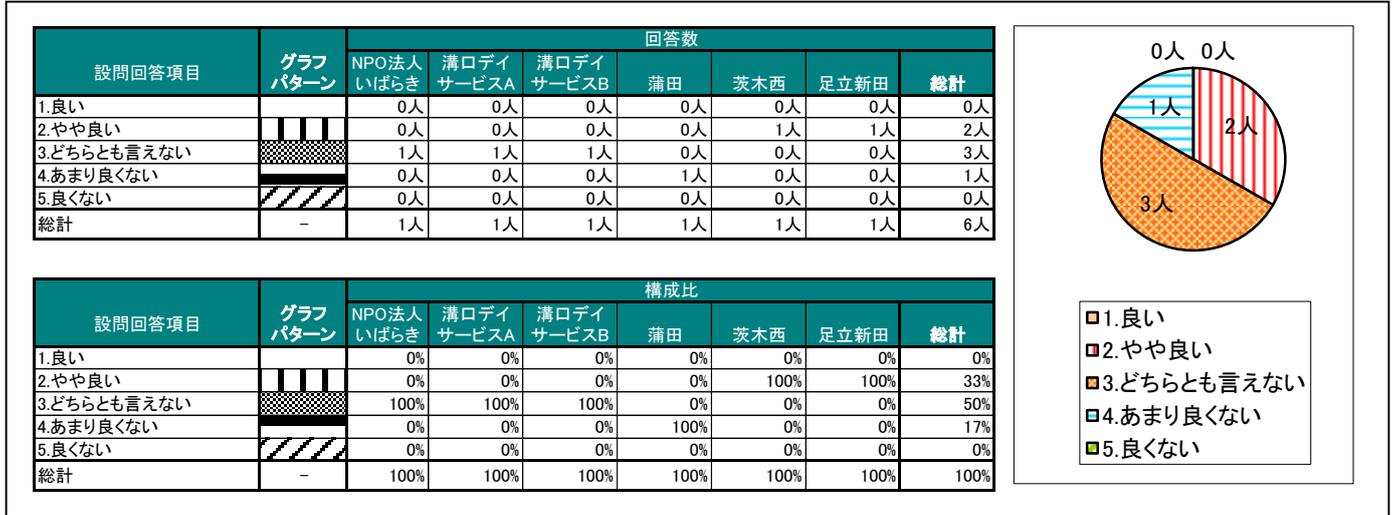
No	コメント内容
1	今後膨らみ続ける医療、介護をどう支えていくべきか、若い世代に考えて頂く機会が増えていくと良いと思う。 国民としての義務(納税等)や勤労する意欲につながれば良いと思う。
2	介護保険も医療保険も無駄に使っている部分を減らしていく必要がある。国民、事業所、行政等の意識をもっと高めるべきだと思っている。
3	国際的にみて、もっと充実していくべき。
4	社会保障は「支えあい」が重要であるが、はたして現行の制度のままで、維持ができるのかネガティブな思いが強かった。 しかし授業を通して、負担するだけが社会保障ではないことに気づき、また安心した社会の維持のためには 社会保障制度を肯定的に捉えて、行うべきであると思うようになった。
5	私達が安心して生活をしていくために必要不可欠であり、生徒にとって学習して理解を深めるべき内容である。
6	必要ではあるが、時間がなかなかもてない。

= 教育後概要 =

コメントの傾向として若い世代へ社会保障のしくみや課題を伝えることの重要さや義務感が感じられる。また、教育前の集計結果と比較すると、社会保障制度の周知に言及するコメントや、現行の社会保障制度の問題点など一律に肯定的な意見に集約されるのではなく、多彩な回答傾向も学生とはやや違う傾向と感じられた。

教師・講師－3_教師・講師の社会保障教育の効果測定(イメージの変化)

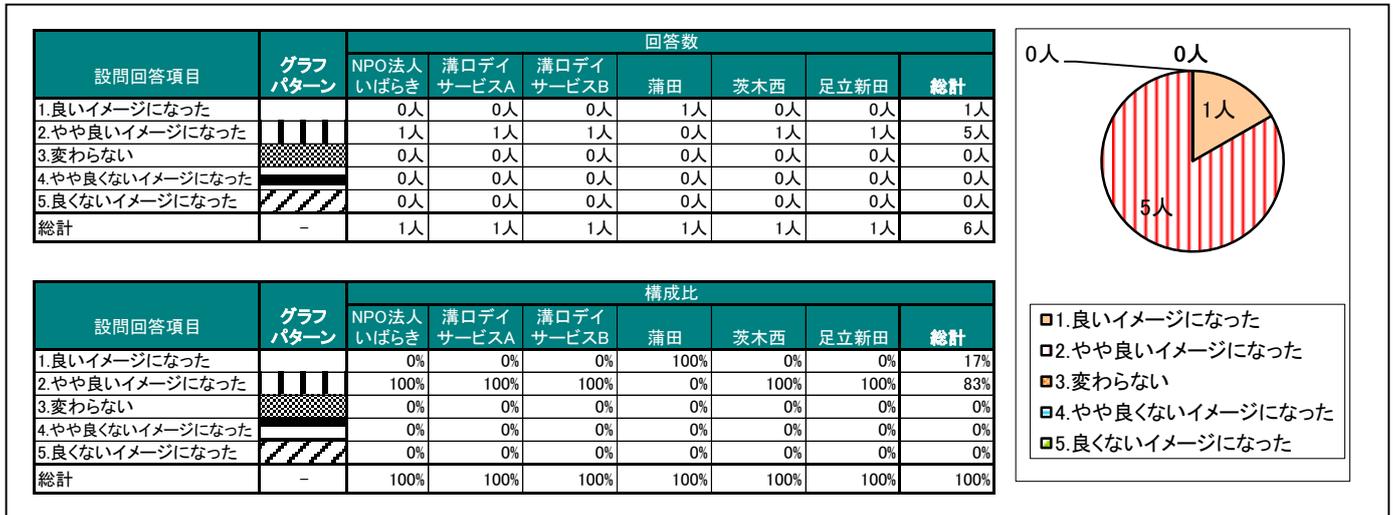
■ 社会保障教育前:A-3. 社会保障に対するイメージは？



＝ 教育前概要 ＝

生徒への教育前、(教師・講師)6人中肯定的回答が2名、中立的回答が3名、否定的回答が1名という結果であり、社会保障についてのイメージは、教育前だと教師・講師にとってもあまり明確になっていない事を示唆する結果となった。

■ 社会保障教育後:C-6. 今回の体験活動を実施して、社会保障に対するイメージは変わりましたか？

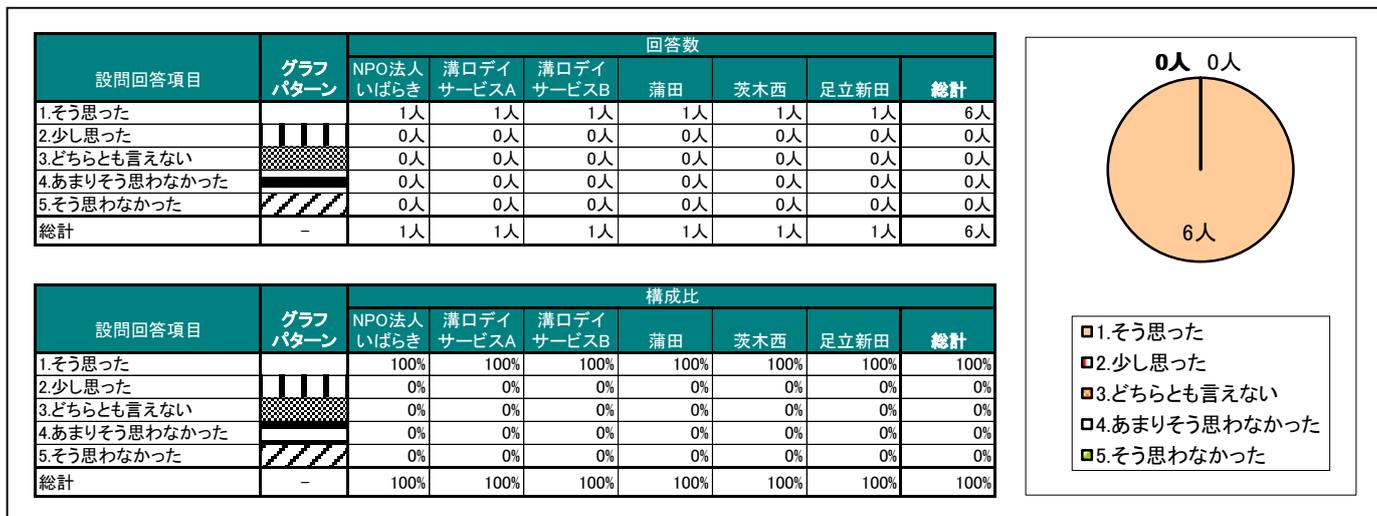


＝ 教育後概要 ＝

生徒への教育後、(教師・講師)6人中6名が肯定的回答という結果となり、社会保障の教育によって生徒だけではなく教師・講師にとっても社会保障のイメージについて良い影響を与えたことがわかる。

教師・講師－4_ 教師・講師の授業・体験活動(学習)に関する意見・感想

■ 社会保障教育後:B-9. 生徒にとって体験学習は有意義な取り組みだと思いましたか？



＝ 教育後概要 ＝

今回の社会保障教育の中で実施した体験学習について、6人中6名が生徒にとって有意義だと思ったことが結果として出ており、教師・講師から学習内容を客観的に見て体験学習が、生徒にとって有意義な経験を与えたと感じたことが伺える。

■ 社会保障教育後:B-11. 授業・体験活動(学習)に関する意見・感想

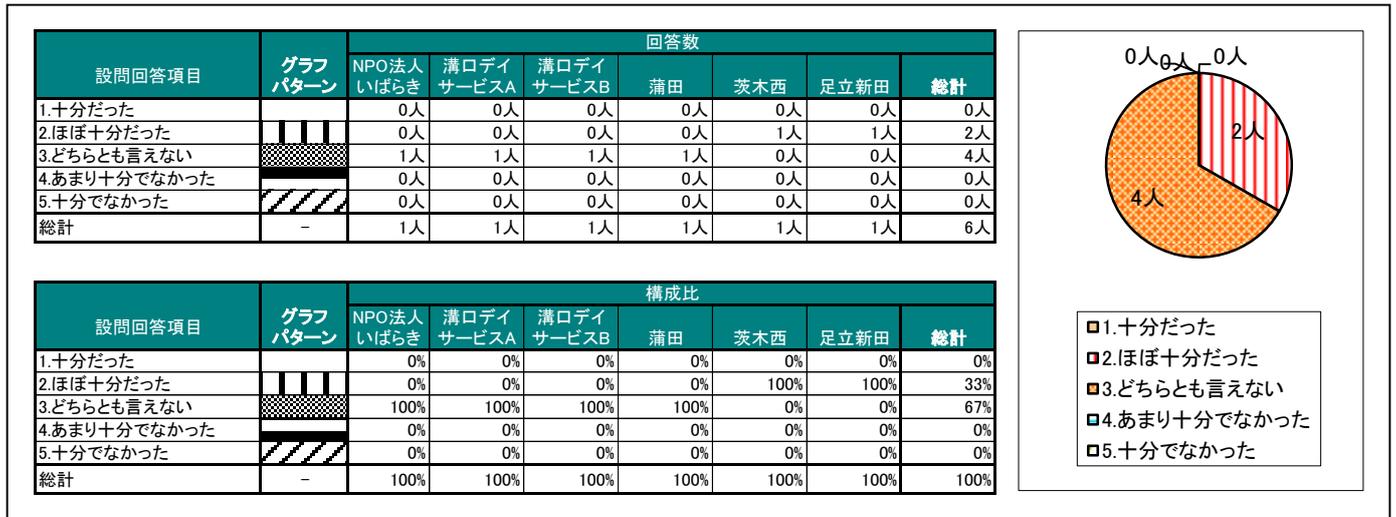
No	コメント内容
1	真面目で素直な生徒達だった。質問、感想など積極的に話していて感心した。より多くの若い方たちに日本の高齢社会の現状を知ってほしいと思う。
2	今後増大するであろう社会保障費を抑えていくには、高齢者の介護予防が必要であることを話した。
3	少しでも意識を持ってもらえたらと思う。とても有意義な時間だった。ありがとうございました。
4	体験は、体感、日常レベルでの理解につながり、リアリティがあるので重要。
5	講義を行ってから体験をするよりは、体験を先に実施してから講義をし、「体験し感じたことを実現するために、社会保障制度が存在する」と説いていったほうが、生徒の心に残るのではないかと感じる。
6	外部講師を招くのは良い。以前には、年金制度について、外部講師の方に来ていただいて授業をしていた。
7	体験は学習効果は大である。しかし、事前準備等を考えるとおっくうになってしまう。

＝ 教育後概要 ＝

外部講師のコメントから、授業を受けた生徒達が積極的に体験学習に参加し、有意義な時間を過ごせたと確認出来た事が伺える。また教師の視点からも外部講師を招いての社会保障の講義は効果的であると感じられている。

教師・講師－5_教師から見た、社会保障推進教育全般への意見・感想

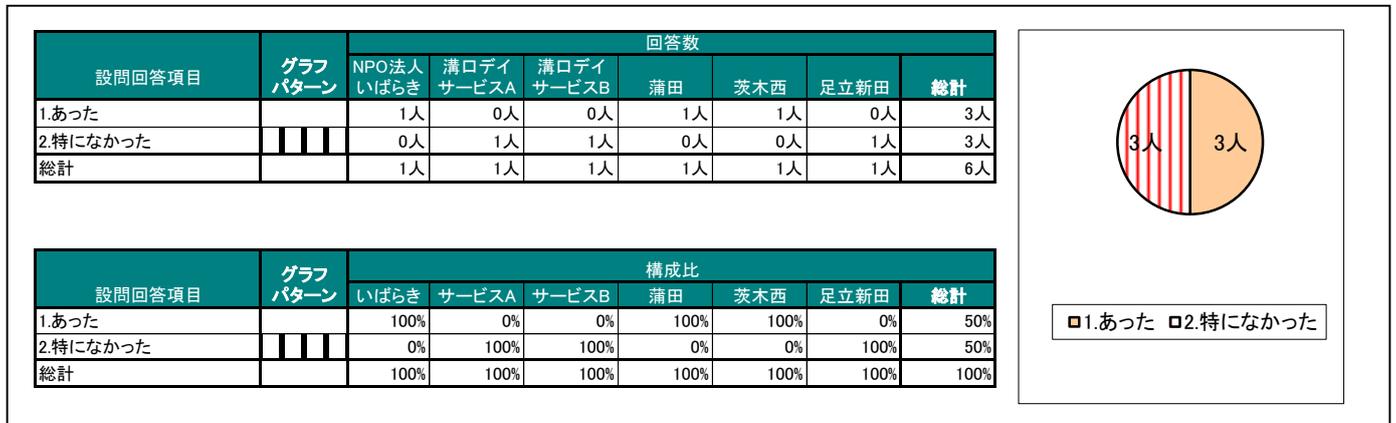
■ 社会保障教育後：B-5. 社会保障の仕組みを生徒に教えるのに、今回の体験活動は十分でしたか？



＝ 教育後概要 ＝

今回の社会保障教育の中で実施した体験活動について、教師3名中2名が肯定的な回答をしていることから十分であったと感じていることがわかるが、体験活動を主導した外部講師3名中3名が中立的な回答をしている結果から見ると、その活動内容については謙虚な考えを持っていることが伺える。

■ B-8. 準備や打ち合わせに苦労した点はありませんか？(ある場合、理由も記載)



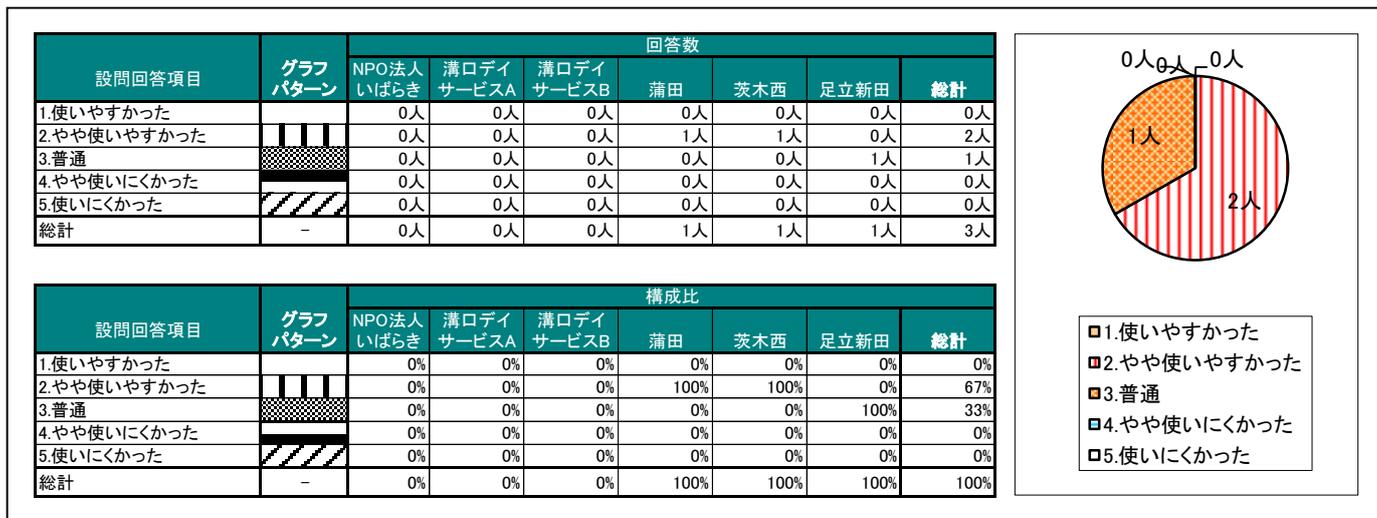
No	コメント内容
1	利用当事者の方を集めて訪問すること。(いばらぎ自立支援センター)
2	本事業が目指している点が見えておらず、どのような授業を行えばよいか悩んだ。(蒲田高校教師)
3	どんな点分かりやすく、効果のあがる教材・授業・授業案の準備。(茨木西高校教師)

＝ 教育後概要 ＝

上記質問に対しての肯定的回答が6人中3名であり、個々のコメントを見てみると授業、講義内容が生徒にいかにか理解しやすく且つ認知度を高めるような効果を与えるようにできるかを苦心していた事が垣間見える。また“目的が見えづらい”という意見もあり、教師によっては授業の着地点の理解に苦労した事も推測できる。

教師・講師－6_社会保障推進教育に使用した教材への意見・感想

■ B-12. 厚生労働省からの提供教材は使いやすかったですか？(教師限定設問)



＝ 教育後概要 ＝

今回の社会保障教育に使用した厚生労働省の提供教材について、教師3人中2名が肯定的回答、1名が中立的な回答をしている結果から、社会保障教育の教材としては、やや使いやすかったことが伺える。

■ B-13. 厚生労働省からの提供教材に関する意見・ご感想(教師限定設問)

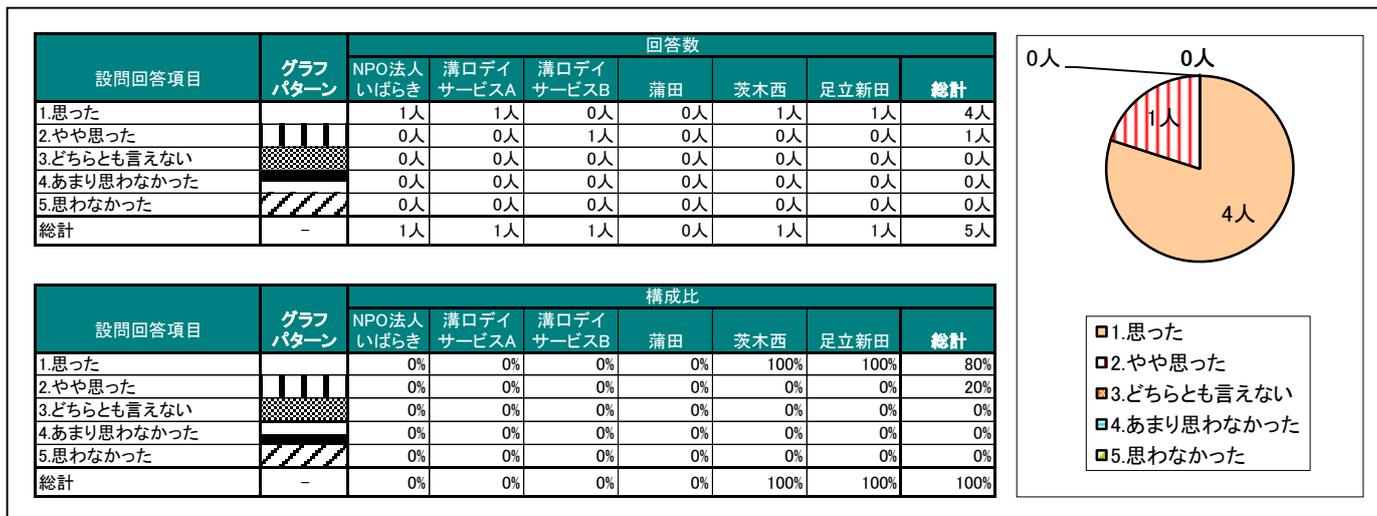
No	コメント内容
1	イラストや資料など見栄え的にも工夫されており、非常に良い教材であるが、内容的に細かすぎる印象がある。 財政と社会保障は密接に関連しているが、教材としては分けたほうが使用しやすい。「ワークシート1枚を50分で」というイメージではなく、20分で終るワークシートを、いくつか作成したほうが良いのではないかと。
2	高校生が興味を持って見るDVD教材や、パワーポイント教材を提供して欲しい。
3	資料は良いが、文字が小さい(くわすすぎる)、記入の仕方が生徒の目線から見ると書きづらい。

＝ 教育後概要 ＝

今回の社会保障教育に使用した厚生労働省の提供教材について、総評として使いやすかったという回答が多かったが、上記コメントを見ると、資料内容が細かすぎることの指摘や財政と社会保障について資料の切り分け要望など、教師側としては受講する生徒によりわかりやすい教材提供を希望していることがわかる。

教師・講師－7_今後の社会保障推進教育への意見・感想

■ 社会保障教育後：C-7. 今後もこのような社会保障に関する学習に協力したいと思いませんか？



＝ 教育後概要 ＝

今後の社会保障教育における協力について6人中5人が肯定的回答をしており、教師・講師の社会保障教育についての周知意欲は感じられる結果となった。

■ 社会保障教育後：C-14. 今後、学校で社会保障教育を全国に広げていくには、どうしたら良いとお考えですか？（教師限定設問）

No	コメント内容
1	高等学校の場合、学校間のレベルの差が非常に大きいいため、ターゲットを明確にした資料が望まれる。具体的には、本教材を使用し、授業が行えるのは、かなり学力が高い学校と推測する。しかし、そのような学校は大学受験という大きなハードルがあり、社会保障教育の充実のターゲットとしては正直、難しいのではないかと考える。教材をなるべく簡素化し、中堅校からそれ以下の学校をターゲットとしたワークシートを作成し、社会保障の核心的なところを伝える教材の作成、また啓蒙に舵を切った方が全国的に普及するのではないかと考える。
2	高校の家庭科の授業の中では、社会保障教育が実施されています。高校の家庭科の授業に活用できるようなDVD教材やパワーポイント教材、グループワークなどの授業展開例を紹介すると良いと思います。
3	先生方の研修、資料の提供、総合的な学習で行う(出前授業の形などで)。

＝ 教育後概要 ＝

今後の社会保障教育を広げていくにあたり、

- ①ターゲットを中堅高以下に向けた学習教材の確立(簡素化)、
- ②高校一般授業でも活用可能なわかりやすい教材や体験学習の紹介、
- ③教師側の社会保障研修、

といったように教師自身も社会保障の啓蒙活動に対して、今回の教育を通じて感じたことを意見としてフィードバックしており、今後の課題抽出として検討する材料となりそうです。